751-251
1200501594488
51
251

朝日東亜リポート
第五冊

蒙疆

大渡順二

東亞問題調査會編

朝日東亞リポート

蒙疆

5

751
251

朝日東亞リポート　第五冊

蒙疆

朝日新聞社　東亞問題調査會

昭和十四年　東亞(小)　第四

朝日東亞リポートの發刊について

支那事變第三年の春を迎へて東亞新秩序建設に對する日本の責務は愈々重大性を加へ來り、全國民生活を擧げてこの目的の達成に邁進すべきことが要望せられてゐる。當調査會は玆に見るところあり、社内各方面專門家の協力を得て朝日東亞リポートを發刊することゝなつた。

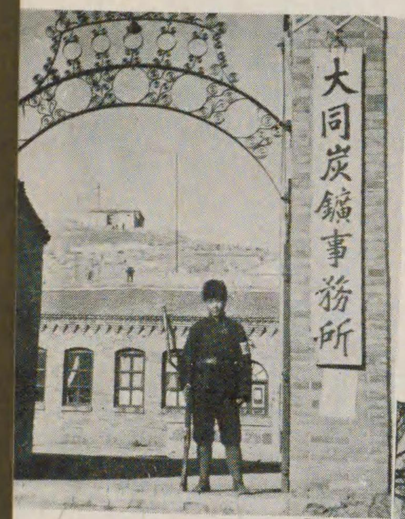
題材の範圍は能ふ限り廣汎に、苟くも東亞新秩序建設に關係ある限り、國内問題たると國際問題たるとを問はず之を取扱ふ方針とした。而してその内容は努めて平易なると共に專門的ならんことをも期するものである。

昭和十四年一月

朝日新聞社　東亞問題調査會

龍烟鐵鑛烟筒山の露天掘

德王



大同炭鑛事務所

包頭風景點描

→西ソニト旗公署
（包がおで所役あろ）

貝子府の廟の本堂

蒙古人平民の包

ホルトン廟の前景

東ソニトの喇嘛塔

貝子府の喇嘛僧

東阿巴哈那爾の群王妃

包附近の牛糞堆（燃料）

タークロンに憩ふ駱駝の隊商

751
251

序

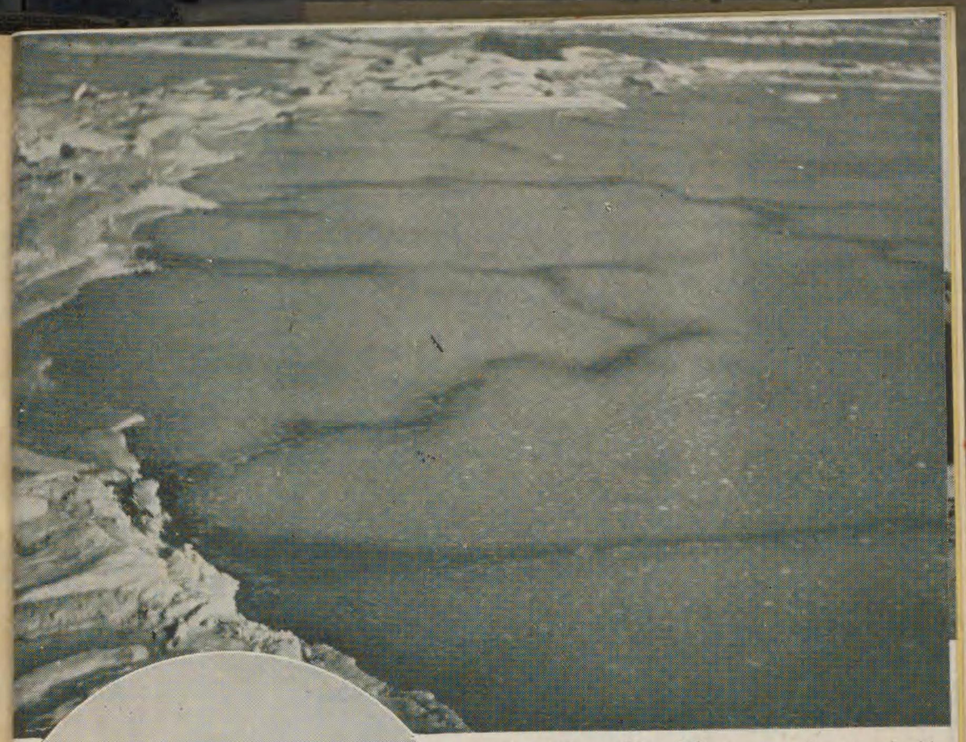
蒙疆は所謂防共特殊地域として、政治的意義の極めて重大であると同時に、富饒なる大同炭礦はじめ各種の鑛產資源並びに農、畜產資源を有することは、日滿支經濟ブロックに寄與すべき資源の確保といふ上から經濟的にも至大の重要性を有つものである。蒙疆政權は成立以來日、蒙、漢三族の協力によつて驚異的發展を遂げたことは夙に知られたところである。

最近機構改革によつて一層その統制を强化したが、蒙疆の政治上の特殊性に應じて高度自治を目指しつゝ、東亞新秩序建設の强力なる一翼としての躍進態勢を整へたものである。

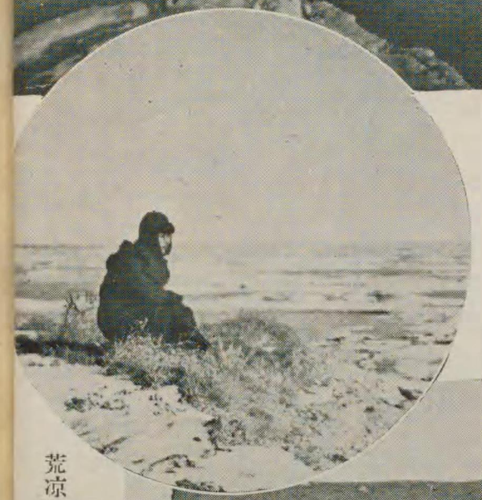
本輯は、さきに同地域を實地踏査した本社政治部員大渡順二氏の記述に係り、蒙疆の全貌について最新且つ最正確なる資料として大方の期待に副ふものであると信ずる。

昭和十四年六月

東亞問題調査會



ダブスノール（鹽湖）の湖面



荒涼たる湖畔に座せる筆者大渡氏

買賣家に集つた夥しい羊毛皮

目次

蒙疆とは？……一
蒙古角逐の回顧……四
皇軍の蒙疆作戰……七
一、張家口まで……七　二、大同・平地泉まで……九
三、厚和・包頭まで……一〇
育つ蒙疆政權……一一
行政の實際……一六
正しい地圖……一九
漢、蒙、回の話……二一
內蒙古の話……二六

一、蒙古人と遊牧……二六　二、清朝と蒙古人……二九
三、喇嘛教……三〇　四、蒙古人の富は何處へ（蒙古貿易の話）……三三
五、大蒙公司の活動……三七
西北への凝視……四〇
一、回民の立場……四〇　二、包頭の背後地……四二
三、羊毛と回民……四四　四、回民間屋……四五
五、包頭の羊毛事情……五一
產業の話……五四
一、畜產……五四　二、獸毛及毛皮の輸出取締……六二
三、大同炭……六三　四、龍烟鐵鑛……七一
五、ダブス・ノールの鹽……七四　六、その他の產業……七六
金融の話……七九
一、事變前の金融事情……七九　二、事變後の金融統制……八〇
三、蒙疆銀行設立……八二　四、蒙銀券の對外價値……八四

交通の話……八六
一、京包線……八六　二、自動車交通の統制……八八
外蒙古の知識……八九
一、防共と蒙古……八九　二、ソ聯の對蒙政策……九〇
三、呻吟する外蒙古人……九三　四、張庫赤色ルート……九六
内蒙風物ところどころ……九八
一、内蒙入りの用意……九八　二、德化の風景……一〇一
三、包（パオ）……一〇三　四、草原の魅力……一〇四
五、貝子府の附近……一〇八　六、タブス・ノール……一一
七、川のある風景・百靈廟……一一三　八、廢都の多倫……一一四

蒙疆とは？

蒙疆については、多くの人々はあまり正確な理解を持つてゐないやうである。蒙疆といへば蒙古と誤解し、或は北支那に結びつけたりして、蒙疆の概念をはつきり把握してゐない憾みがある。今次の支那事變によつて新に興起した蒙疆の民族的、軍事的、政治的、經濟的重要性を理解するためには、いろんな角度から蒙疆の正しい理解を得なければならぬ。

北京正陽門から汽車に乘つて京包線を西へ張家口、大同、厚和、包頭の京包沿線都市の幾つかを漫然と歩いてみて、それで直ちに蒙疆の特殊性を把握しようと思ふのは大間違ひである。そこは一般人士には意外なことに、純然たる漢人地帶である。それで一般の人は所謂蒙古（蒙疆ではない）を見たつもりになつて歸る。或は氣の付いた人々は「蒙古人の生活は見られませんでした」といふ。事實、京包沿線を漫然と歩いただけで蒙疆の本質は判るものではない。

では、蒙疆とは？

蒙疆は廣袤五十萬平方キロ乃至六十萬平方キロ、我が國の本州、四國、九州、朝鮮を合した面積と略同じである。この五十萬平方キロ乃至六十萬平方キロといふ大まかな面積の計算が、先づ蒙疆の面目を語つて居る。人口五百萬乃至七百五十萬――この大まかな人口も同じ面目を語つてゐる。事變前、國民政府時代から面積にせよ、人口にせよ、信用に足りる基本的調査は一つも無い。これは面積も人口も大まかな數字のまゝに理解しておくのが却つて正確である。或は蒙疆の最主要畜産たる羊にしても、一說には一千二百萬頭といひ、或は四百萬頭といひ、一番正確らしい推算では三百萬頭といふ。だが蒙疆を理解するのにかういふ數字を詮索することと自身が間違つてゐる。數字の詮索に憂身をやつすことは間違つてゐる。かういふ數字は極く大まかに理解して置かう。蒙疆の本質、我々が今日蒙疆に就て把握しなければならない要點はこんなところには無い。

先づ世界地圖を擴げて欲しい。

日本內地、朝鮮、滿洲國――この滿洲國の橫腹から西南に向つて蒙疆が細長く延びてゐる。そして支那本土を大きく南に扼してゐる。北は赤の外蒙古とシベリア鐵道。西は寧夏、青海、新疆、西藏の所謂支那西北邊疆に接してゐる。

蒙疆を理解する第一の鍵は、北は赤の外蒙古を抑へ、南は支那本土を睨み、西は西北邊疆に延びようといふ、宛も双刄の劍の役割を理解するにある。外蒙古庫倫（クーロン）、張家口、北京を結ぶ張庫赤色ルートは今事變で新興蒙疆の誕生によつて遮斷された。次は西北邊疆の赤色ルートを遮斷しなければならぬ。

蒙疆を理解することは軍事的のみならず民族的にも大きな意味をもつてゐる。中央アジアから東へ所謂世界の屋根を越えて、この內外蒙古、滿洲、日本を繫ぐものはツラン民族圈である。この血緣によつて日本は滿洲國と兄弟になつた。今事變からは新興蒙疆とも兄弟分になつた。赤の外蒙古にも兄弟分が呻吟してゐる。西北邊疆も血緣のつながりを待つてゐる。新興蒙疆はこの民族的な夢を載せてゐる。蒙疆を理解する第一の鍵は此所にある。

新興蒙疆の一切はこの軍事的、民族的目的に結集してゐる。蒙疆の經濟もこの目的に動員されてゐる。或る者はこれを兵站經濟と評してゐる。一般の行政も、交通も總て同じ目的に結集してゐる。まこと蒙疆に入つて見ると、如何にもその緊張と覇氣とが窺はれて頼もしい。

新興蒙疆が生れるまで、過去何十年間にわたつて、何故外蒙と鬪つて來たか、何故國民政府の壓迫に抗して來たか、何故日本の指導が必要だつたか――總てはこの大使命によつて理解しなければならぬ。漢、蒙、回各民族の協和、その經濟力の構成――所謂蒙疆民族問題も、この

大使命を鍵として解決されねばならぬ。

ここに「蒙疆とは？」の鍵がある。

蒙古角逐の回顧

ジンギス・ハンが世界史に稀れな大蒙古帝國を建設したのは七百年の昔だつた。その孫フビライの元國を頂上に蒙古帝國は崩壞した。だがジンギス・ハンの世界史的な民族の情熱は、なほ消えやらで、今日再び蒙古民族復興の氣運となつて再生してゐる。その今日に至るまで蒙古を舞臺にどんな角逐が行はれて來たか。

アジア大陸に向つて英國は印度より、ソ聯は新疆及外蒙より魔手を伸ばしてゐるのに對し、日本は滿洲國と共にアジア防衛の聖戰を進めてゐる。この三勢力の衝突は、今日の蒙疆政權確立によつて已になかば運命を決せられた。だがこれまでの蒙古、殊に內蒙を舞臺とするソ聯、支那及我が國の角逐は目まぐるしいものがあつた。

ロシア東漸の夢は餘りにも古かつた。これは日露戰爭で一とまづ挫折したが、世界大戰（一九一四年）、ロシア革命（一九一七年）を經て後も、なほこの東への觸手は活潑に伸ばされ、遂に一九二四年外蒙古が赤色共和國として獨立した。これによつてソヴェトの東進政策は有力な基地を得たわけで、內蒙古は絕えずその脅威の下に慄へた。

初め蒙古は清朝を援けて清朝皇帝の統治下に厚遇を受けたが、同時に清朝の巧な蒙古軟化政策の犧牲に供された。清朝末期に及んで滿洲族の勢力はいつしか漢人にとつて代られ、蒙古人壓迫政策の時代に入り、蒙古人は次第に漢人の下に屈服して行つた。一九一一年清朝崩壞に際し、內蒙の反漢派が獨立を企てゝ失敗し、外蒙に逃亡した。外蒙は帝政ロシア勢力の下に獨立し、これは更に後年赤色共和國に轉化した。爾來內蒙古の苦悶時代が續けられて來たのである。

一九三二年滿洲國の成立は、內蒙古人にはじめての希望を與へた。內蒙東部の蒙古人は興安四省の下に滿洲國に參加し、この滿洲蒙古人の喜びは殘された內蒙古人同族に大きな影響を與へるに至つた。內蒙とはいひながら察哈爾、綏遠の二省の下に支那の行政で虐げられ、他方外蒙よりするソ聯の壓迫に苦しんで來た。

この時、內蒙古錫林郭勒盟、西蘇尼特旗王公の新人・德王が起つた。德王の民族自決の旗幟

の下に、一九三三年内蒙は高度自治要望を南京政府にたゝきつけた。南京政府は狼狽して内蒙自治辨法を制定し、烏蘭察布盟長・雲王を委員長に、德王を祕書長に、中央委員に白雲梯を置き、内蒙自治指導長官に何應欽を任命して内蒙自治政府を成立さした。だがこれは南京政府の金力と武力の壓迫による骨拔きの自治で、爾來内蒙と南京政府の對立は次第に激化した。

一九三六年二月南京政府は、同政府派の西蒙諸王公の手で綏境蒙政會を組織させ、百靈廟の内蒙自治政府の切崩しにかゝつた。爾來傅作義軍の侵略、德王一派に對する暗殺運動等々のため、蒙政會と自治政府は益々對立激化し、遂に一九三六年秋綏東事件となつた。同年八月包頭西北のメルケン・スムで傅作義軍が蒙古人三百餘名を虐殺するや、德王一派は遂に蹶起した。

德王は李守信の蒙古軍と相携へ、綏東の商都に軍政府を組織し、傅作義に挑戰した。南京政府はこれに對し綏遠軍、山西軍の外に中央軍まで動員し、蔣介石自ら太原に乘り込んで指揮し内蒙軍と戰つた。

この時西安事件が發生し、蔣介石は張學良のため監禁された。これに對し内蒙軍は停戰通電を以て應へた。綏東事件は一九三七年一月内蒙軍の後退によつて一先づ落着した。支那側はこの戰を以て支那民族戰の大勝利と自讃し、蒙古への勝利は日本への勝利であるとなして宣傳し、西安事件の暗雲拂拭に努めた。そして支那國民の抗日意識、抗日戰への準備を煽つた。傅

作義は支那民族の英雄に祭りあげられた。綏遠事件の陣歿將士追悼大會は綏遠城（厚和）に開かれ、大青山麓の蒙古原頭に汪兆銘以下各代表が集つて抗日運動の炬火を點じた。

然るに西安事件は南京政府をして容共政策に走らせる緒となつた。支那共產軍は北支内蒙に勢力を伸ばし、ソ聯また俄にその魔手を内蒙北支に覗かせた。

この時蘆溝橋事件勃發し、支那事變が始つた。山西・綏遠軍の内蒙蹂躙に對し、德王等の内蒙軍は再び蹶起、關東軍に協力出動した滿洲軍と共に支那軍討伐をはじめた。

皇軍の蒙疆作戰

一、張家口まで

皇軍の蒙疆作戰は、北京より京包鐵道沿線を西進した北支軍と、滿洲より内蒙に入つて張家口に出た關東軍の兩作戰に分たれる。

昭和十二年八月、北支軍は先づ京包沿線南口を攻略した。南口攻略後八達嶺に敵が退却するのを急追し、居庸關の山嶽戰にかゝつた。これは八月十五日、居庸關の天嶮、炎熱百三十度の下に肉彈戰を續け、陸の荒鷲の應援を得、我が國戰史はじまつて以來の大規模な山嶽戰が續けられた。同二十二日萬里の長城の一角に日章旗を揭げ、翌二十三日未明居庸關を完全に占據した。

引續き皇軍は敵を急追し懷來南方の右洞子を攻略し、他方飛行隊は京包線を大同まで爆擊して行つた。

他方內蒙方面で敵部隊が內蒙軍と戰つて滿洲國境を脅かし、土肥原・秦德順協定及停戰協定を蹂躙するや、關東軍は遂に斷乎同方面の敵軍擊滅のために起つた。卽ち八月二十日午後關東軍の荒鷲は張家口を猛烈に爆擊し、同時に同夜半より張家口北方の長城線に兵を進めて攻擊を開始、二十一日午前その長城線を占據、更に一擧張家口に向け追擊した。二十二日張家口北方の萬全を占據し、二十四日その南の孔家莊に入り、こゝに京包線を遮斷し同夜半張家口を占據した。

關東軍の張家口占領により敵は袋の鼠となり、長城線を拋棄して西南方へ遁走をはじめた。關東軍は同二十七日午前十一時張家口に入城した。引續き下花園に進出し、他方八達嶺を越えて新保安に入城した北支軍と京包線上の聯絡をとり、こゝに關東軍と北支軍が劇的握手を交した。

二、大同・平地泉まで

冀察省境より潰走した敵は遠く大同方面に退却した。皇軍は九月一日懷安、永嘉堡を占據し、引續き天鎭及南堡塹を占領した。九月十三日疾風の如く大同に殺到し、遂にこれを攻略した。

また別に察哈爾南部の蔚縣、陽原を占據し省境を突破して山西省に入つた。以上により察哈爾省內の敵は一掃されたのだが、これに先立ち九月三日には早くも張家口に察南自治政府が設立され、皇軍進擊の跡に行政を擴げて行つた。

大同を制壓した皇軍は一路京包線を北上し平地泉に進擊した。九月十七日豐鎭、十八日左雲をそれ〴〵占據、二十一日平地泉南方地域に進み、こゝで激戰が展開された。故駒井部隊長の壯烈な作戰は未だに戰史を飾つてゐる。さすがに頑强な平地泉の敵も二十四日午前空陸の總攻擊に遂に陷落、內蒙軍も協力して入城した。敵軍が不落の要害とたのんだ平地泉もかうして陷

落した。

三、厚和・包頭まで

平地泉攻略後皇軍は、西走する敵を京包線に沿つて急追し、九月二十四日八蘇木を占據、これに内蒙軍よく協力し、他方二十三日凉城を陥れた皇軍は西北に進擊し、日蒙兩軍は敵の本據綏遠（厚和）を包圍した。

他方内蒙軍は九月十九日陶林を占據、三十日百靈廟を占據して敵の退路を遮斷した。また綏遠北方の武川及包頭北方の固陽も確保した。十月八日平魯を占據した皇軍は一擧北上し、十四日綏遠城附近の激戰を經て同日一擧綏遠、歸化城に入つた。「綏遠をとるものは蒙古をとる」といはれた蒙古の古都綏遠は陥ちたのである。

引續き皇軍は京包線を急追して包頭に進擊、十月十七日包頭を占領した。

この間德王及李守信の内蒙軍は康保、商都、百靈廟等を攻略して包頭に入つて皇軍に合したが、綏東事件の仇を返し蒙古民族復興の情熱をのせてよく勇猛に戰つた。

この皇軍進擊の跡に、大同及厚和にそれ〴〵晉北、蒙古聯盟の兩自治政府が設立された。

かくして皇軍の蒙疆作戰は京包線に沿つて包頭まで治安を確立し、こゝに蒙疆政權の輝かしい誕生を迎へるに至つた。

最近では、昭和十四年四月はじめ皇軍は更に西進して安北を占據した。安北は包頭より五原に至る眞中の要衝である。

育つ蒙疆政權

先づ察南自治政府　關東軍が張家口に入つたのは昭和十二年八月二十七日、これと一緒に現在蒙疆聯合委員會最高顧問をしてゐる金井章二氏が入城し、先づ張家口治安維持會の結成を圖り、引續き政府の組織に取りかゝつた。この治安維持會は地方人民代表の手に依つて自治、治安確立、福祉の增進を目的として政府組織の有力な前提であつた。同九月四日舊察哈爾（チャハル）省地方を行政區域として察南自治政府が組織され、察哈爾二百萬民衆の自治を宣明し、察南十縣の縣長を任命した。

次で晋北自治政府　更に關東軍は張家口から南下して九月十三日大同に入城したが、金井氏は同樣ともに入城して指導に當り、十月十五日晋北十三縣の人民の總意を以て晋北自治政府が創立された。山西省の北部、內長城線と外長城線に挾まれた地域で、昔山西省を晋といつたので、その北の地方だから晋北の名稱を附された。

厚和に蒙古聯盟自治政府　引續き關東軍が西進し厚和に入るや、蒙古軍政府を中心に內蒙各盟旗縣代表三百餘名が集つて十月二十七日厚和に蒙古大會を開催、蒙古聯盟自治政府の成立を宣言した。その會場は厚和公會堂である。同公會堂こそは同年一月綏東事件で德王軍が後退するや、國民政府側が對外戰の勝利として、陣亡軍民追悼大會及び大閱兵式を擧行すると共に大祝賀會を催した因緣の場所である。

これが年を越えずして早くも綏遠軍閥の打倒となり、蒙古民族多年の宿望が達成されたことは歷史の齒車の早さに感深きものがあつた。同年春のことだつた、內蒙西北境の西烏珠穆沁(ウジュムチン)旗で第一次蒙古大會が開かれてから僅か半歲餘、こゝに第二次蒙古大會で蒙古聯盟自治政府創立を見て蒙古人は黎明を迎へた。

蒙古大會の感激　第二次蒙古大會は十月二十七日厚和に開催、この日大會を祝ふビラ、ポスター氾濫の中に、德王、李守信以下軍政當局その他代表三百餘名が出席、正面壇上に蒙古不

世出の英雄聖チンギス・ハンの肖像を掲げ日蒙兩國旗がこれを包み、德王が左の如き蒙古復興の熱辯を振つた。

「顧れば烏珠穆沁大會を擧行してより本政權樹立準備の重任を擔ひ、努力して今日に至る。堅決奮鬪、つひに長城以北の蒙古の故土を收復し、新政權樹立の準備はこゝに成つた。防共並に民族協和の精神に則り、我が蒙古に明朗の一新紀元を開き、民衆全體のために永享來利の基礎を奠定したい。」

正に蒙古民族の歷史的瞬間であつた。

かくて從來の綏遠、歸化城（この二つの市街は約一キロ距てゝ並木で繫がつてゐる）を合して厚和の名に復元したが、これは新生蒙古を象徵してフヘホター「碧き都」の古名をとつたものだ。更に十月二十八日を以て成吉思汗紀元を回復し、同日を成吉思汗紀元七百三十二年十月二十八日と改めた。蒙古聯盟自治政府は主席に雲王、副主席に德王が就任した。後に雲王の歿後德王が主席となり今日に至つたが、德王は更に昭和十四年四月蒙疆聯合委員會委員長になつた。德王は日本へ來朝してから一躍有名になつたが、德王の前の雲王が偉大なる人物だつたことは忘れてはならない。これで內蒙古新生のスタートが切られた。

三政府の上に蒙疆聯合委員會　察南自治政府、晋北自治政府、蒙古聯盟自治政府、こ

の三つの政府は「日蒙親善」「防共」「民族協和」「民生向上」のスローガンで同じ新興の意氣に起ち上つたので、各政府はお互の善隣關係を促進し、產業、金融、交通等の重要事項について協同しようではないかといふところから、張家口に昭和十二年十一月二十二日蒙疆聯合委員會といふものが出來た。各自治政府より代表委員を選任し、察南、晉北兩政府は各二名（何れも漢人）、蒙古政府は三名（何れも蒙古人）合計七名の委員を選任した。これには別に日系者が顧問としてその指導に當り、先に述べた金井章二氏が最高顧問として、文字通り最高指導に當つて今日に至つてゐる。三政府ともそれ〴〵主席が決つてゐるが、この蒙疆聯合委員會の代表委員には別段の主席は設けられなかつた。それが極く最近（昭和十四年四月二十九日）總務委員長が出來て、初代委員長には德王が就任した。つまり蒙疆政權の主班が出來たわけだ。はじめ蒙疆聯合委員會は三政府の聯絡協議機關として契約によつて成立し外交、產業、交通、金融の四事項の行政を委任したものであつたが、これは漸次中央政府としての實體に轉化生育してゐる。そのため初めは總務、產業、金融、交通の四專門委員會別になつてゐたが、後に總務、產業、財政、交通、民生、保安の六部に擴大改組され、聯合委員會の統制權が强化され、聯合委員會と三政府の連繫が緊密化した。同時にこれは「聯日防共」政權たる北京の臨時政府及び南京の維新政府並びにその他に興りつゝある同目的の政權に對し、獨立と支持と相互扶助

の關係に立つことを明にするものだ。委員は左の通り。于品卿以下は漢人である。

委員長　德　王
委　員　卓特巴札晉（總務部長）
〃　陶克陶（保安部長）
〃　金永昌（產業部長）
〃　于品卿（察南自治政府最高委員）
〃　杜運宇（交通部長、民生部長）
〃　夏恭（晉北自治政府最高委員）
〃　馬永魁（財政部長）

蒙疆聯合委員會設立宣言書

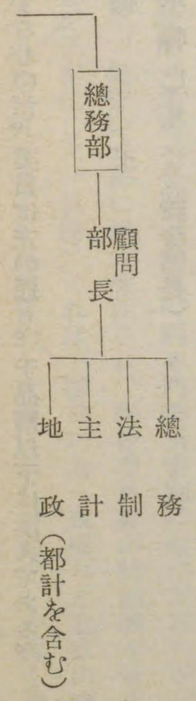
暴戾なる南京政府竝に軍閥の羈絆を脫し、敢然起つて東亞永遠の平和確立の大旆を揭げ、相次で成立を見たる我察南自治政府、晉北自治政府、蒙古聯盟自治政府は相互の善隣關係を促進し、各政府共同の目的たる防共民族協和竝に民生向上の實現に向つて邁進

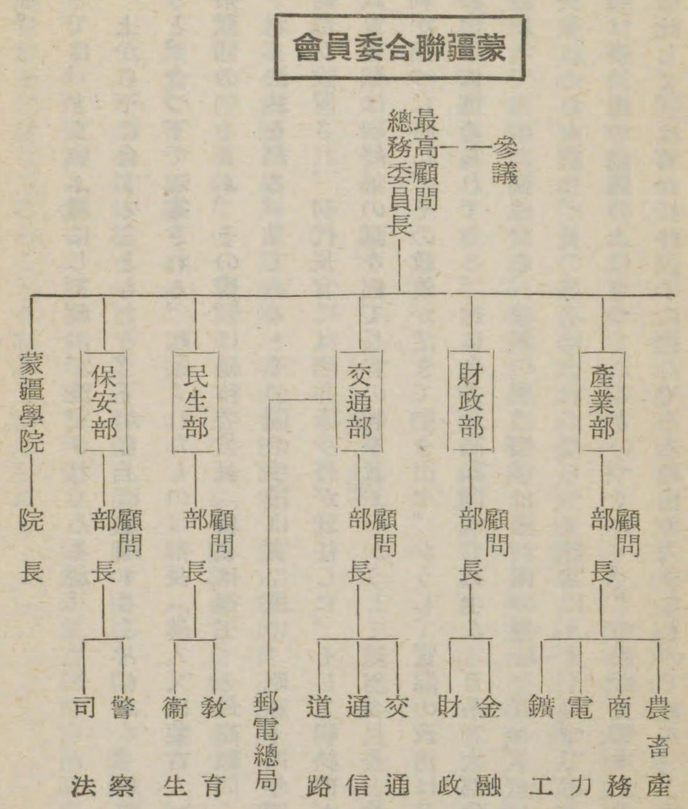
せんが爲、茲に相計り本日を期して蒙疆聯合委員會を設立し、以て相互に利害休戚を同うし、共に相關聯する重要事項に關し、緊密なる協議統制を加へ、以て各自治政府の協力に依り蒙疆七百萬の人心の安定を計り、本地方一帶をして明朗一點の曇なき樂土たらしめむことを期す

聯合委員會成立に當り右宣言す

行政の實際

蒙疆聯合委員會へ行つて見ると總務、産業、財政、交通、民生、保安の六部に、それ〴〵漢人、蒙古人、日系者が揃ひのカーキ色制服を着て仲好く机を並べて精勵してゐる。皇軍の勞苦





を偲びその規律も嚴重で、朝の勤務時間なども非常に嚴重に守つてテキパキ仕事を裁いてゐる。

では、どういふ風にして政治が決定されてゐるか。

上から下に命ずることもある。下から上に建議することもある。政策なり方針なりが決定すると、先づ下で起案される。起案されたものは部長（漢人又は蒙古人）と部長を扶けてゐる日系顧問の判を貰ふ。その書類は總務委員長（現在は德王）と最高顧問（金井章二氏）の下へ廻されて決裁を經る。見てゐるとその間の手續は實に速い。昭和十四年四月張家口にも興亞院聯絡部が設置され、初代長官には酒井隆少將が就任した。そして聯絡部が活動に入つたが、同じ政策書類は聯絡部の議を經て長官の判を貰ふ。かうして總務委員長と最高顧問と聯絡部長官の判が揃つた時に、その政策が活きて動き出す。かうして實際の政治は日、漢、蒙の美はしい協和の下に進められてゐる。殊に金井最高顧問はじめ主なる日系者大部分が、滿洲國建設當時の經驗者であつた關係から、蒙疆の建設指導は滿洲國の經驗を百パーセントに活かして、過去の失敗はこれを避け、その成功はこれにならつて非常にうまく行つてゐる。つまり蒙疆の建設指導は滿洲國の經驗の上に育つてゐるといつていゝ。この點が支那本土の新興各政權の生育振りに比して、はるかに好調子に進んでゐる理由の大きなものである。これは實際に蒙疆の何處を

歩いても直ぐ看取出來る。蒙疆聯合委員會と地方の三政府の間、それから地方の盟顧問、縣顧問、その他各種顧問の間も非常に仲好く行つてゐる。話の判りが早い。

それから政府の委員、國策會社の社長乃至總裁などいづれも漢人乃至蒙古人が椅子を占めてゐるが、蒙疆聯合委員會の指導が良く徹底して、日系者はこの漢人乃至蒙古人の役員に十分の敬意を以て協調して當つてゐる。美はしい風景である。

正しい地圖

新興の蒙疆が察南自治政府、晉北自治政府、蒙古聯盟自治政府の三政府の管轄區域の上に立つてゐることは前に述べた。そしてその上に蒙疆聯合委員會があつて、これが所謂蒙疆政權として强力に育つて來てゐる。

ところが世上には往々にして蒙古聯盟自治政府の區域を以て、蒙疆と速斷してゐる連中もゐる。これは蒙疆と蒙古の類似から來た錯覺で、蒙疆が蒙古聯盟自治政府の外に察南、晉北兩政府管内を包括してゐることを忘れてはならぬ。

往々にして晉北自治政府の區域を、昔のまゝ山西省に入れた地圖も散見される。また舊の察

哈爾省と綏遠省とを堂々と描いた地圖も見受けられる。また寧夏の先まで範圍を擴げたのもある。蒙疆政權生れて玆に足掛け三年、その政治的權威は確立したに拘らず、未だにかゝる誤れる地圖を散見するのは遺憾に堪へない。世人も認識不足なら、當局もその指導と檢閲が十分でない。だから蒙疆を勉强する人、蒙疆に旅する人は先づ自分の地圖が正しいかどうかを調べて見ることが絶對必要だ。そして先づ正確な地圖に據るのでなければ、その蒙疆認識が飛んでもない方向に迷ひ込むといふことを自戒しなければならぬ。

念のために蒙疆の正確な行政區域を左に揭げておかう。

〔蒙　疆〕

▽察南自治政府

延慶縣　蔚縣　懷來縣　赤城縣
懷安縣　宣化縣　萬全縣　龍關縣
陽原縣　涿鹿縣

▽晉北自治政府

大同縣　朔州縣　右玉縣　靈邱縣
渾源縣　天鎭縣　左雲縣　廣靈縣

應州縣　平魯縣　懷仁縣　陽高縣
山陰縣

▽蒙古聯盟自治政府

察哈爾盟（縣旗は略）
巴彥塔拉盟（同）
錫林郭勒盟（旗は略）
伊克昭盟（縣旗は略）
烏蘭察布盟（同）

漢、蒙、回の話

蒙疆の鐵道沿線都市の何處を歩いて見ても漢人の多いのに驚く。殆ど漢人ばかりと云つても宜い。その中に混つて時々黄又は青の原色の衣を纏つた蒙古人が歩いてゐる。街の所々に「清

眞」の二字を看板に記した料理屋がある。これは回民の經營する料理屋だ。かうして沿線都市でも漢、蒙、回の各民族が仲良く雜居してゐるのだが、蒙疆がこの漢、蒙、回の三民族を抱へて立つてゐる事は、蒙疆の民族問題の特殊性を造つてゐる。蒙疆の正しい理解のためには、この漢、蒙、回の民族的構成をはつきり理解しなければならぬ。そこに蒙疆を解く重要な鍵があり、又民族協和の礎がある。

鐵道沿線都市をいくら巡歷しても、蒙古人の社會は見えない。又西へつながる回民の實體も摑めない。それなればこそ能くこの漢、蒙、回の民族的構成はます〳〵はつきり摑んで置かねばならぬ。

蒙疆の總人口五百五十萬と云ひ、或は七百萬と云ふ。もと〳〵誰が戸籍調査したのでもないのだから、これは何れとも斷定しないのが寧ろ正しい。內輪に見て五百五十萬人と抑へた推定では、漢人五百廿一萬人に對し、蒙古人廿九萬人となつてゐる。その中に回民約九萬四千人が包含されてゐる事になつてゐる。

漢、蒙、回の構成の中一番大切なのは漢人と蒙古人の調整の問題だ。今擧げた數字でもわかるやうに、人口的にみて蒙疆の九割餘は漢人である。そして蒙古人は一割にも滿たない。張家口から大同、厚和、包頭に通ずる京包沿線一帶卽ち蒙疆の眞中を東から西へ走る陰山々脈の南

方地帶は全部漢人地帶である。

こゝに蒙疆總人口の九割餘の漢人が密集生活をして居る。この生活は支那本土の生活と何等變らない。だから鐵道沿線都市を巡歷して見る風景は凡て支那の人文風景だ。

では蒙古人は何處に住んで居るのか？

蒙古人の社會を見るためには鐵道沿線、例へば張家口から自動車で北に向つて全一日の行程を走らなければならない。初め長城以北は名實共に蒙古人の世界だつた。僅か三十年前の外人旅行記を見ても、現在の蒙疆の首都張家口がすでに蒙古探檢記の第一頁に數へられてゐる。

張家口から張北へ行く道に包（パオ）（蒙古人の移動式家屋）が散見されたのも、僅か十數年の過去に過ぎない。漢人の經濟力による進出はまこと凄じいものがある。蒙古人は耕作を知らないが漢人は耕作によつて進出する。蠶が桑の葉を食つて行くやうに、漢人は音もなく駸々乎として蒙古人を追拂つて、北へ〳〵と耕作面積を擴げて來た。そして現在では蒙古人は、陰山々脈を北へ越えた棚のやうな蒙古大高原の遙か彼方に追ひやられてゐる。所がこの大高原と云ふのがとてつもなく大きい。試に見て欲しい。蒙疆の地圖で京包沿線並びに陰山々脈の北は蒙古聯盟自治政府の管轄區域で、まさに蒙疆の面積の大半を占めると云つていい。

この廣い大高原の中に三十萬蒙古民族が、ごま鹽を振つたやうにパラパラと散らばつて

住んでゐる。この地域と民族の分布を先づ頭に入れて頂きたい。

そして經濟力の關係はどうか。

蒙疆の經濟力は、京包沿線を中心にした漢人社會の手に委ねられてゐる。殆ど一切の經濟活動が沿線都市卽ち張家口、大同、厚和、包頭の四都市に集中してゐる。これは皆漢人の經濟社會である。そして三十萬の蒙古民族は今尙原始的な牧畜生產に生きて、その商品化は一切鐵道沿線都市の漢人商人の手に牛耳られてゐる。だから蒙古民族は經濟的には、漢人社會に負ぶさつてゐる。

だが蒙疆と云へば直ちに蒙古と直譯する人が多いやうに、蒙疆に於ける蒙古民族政策を政治的にも民族正義のためにも重要な地位に置かねばならぬ事は變りない。何とかして蒙古民族を復興しその經濟力を高め少し宛でもその民族的文化を向上させてやる事が、卽ち蒙疆の双刄の劍を堅める所以なのである。北は外蒙に對し、西は蘭州赤色ルートに向ひ、南は支那大陸を扼する双刄の劍として蒙疆は鍛へに鍛へられねばならぬ。この重大使命の中心樞軸が蒙古民族である。その意味で總人口の僅か一割に滿たない蒙古民族を、九割に餘る多數の漢民族に併置して、特に力點を置いて考へてやらねばならない所以がある。

人口的にも經濟的にも漢人は絕對壓倒的勢力を有つて居る。だが他方に蒙古人は民族傳統的

な、歷史的な、新秩序建設の有力な一翼として大きく我々の前にクローズ・アップされて來る。こゝに蒙疆に於ける漢、蒙兩民族の相互調整の苦心が潛んでゐる。又蒙疆の政治に特殊な性格を與へてゐる。

察南、晉北兩政府の管內はさきに述べた純然たる漢人密集地域である。兩政府の委員が全部漢人で占められてゐるのはこのためである。これに對して蒙古聯盟自治政府の管內は厚和、包頭、その他沿線都市を除けば、殆ど全部が高原地帶の蒙古人社會である。そのため同政府の委員は、德王始めすべて蒙古人で占めてゐる。政府のある首都厚和は勿論、殆ど全部が漢人である。だがその一角に屹立する蒙古聯盟自治政府の要人がすべて蒙古人であるのは、この背後の廣い蒙古人社會のためである。

そしてこの三政府を統合した蒙疆聯合委員會は察南、晉北兩政府の漢人代表二名宛、蒙古聯盟自治政府の蒙古人委員三名、卽ち漢人四名に蒙古人三名で構成され、彼此能く協和して今日に至つた。昭和十四年四月末德王が久しく缺員だつた總務委員長の椅子に着いて、その首班となつたのも、全くこの民族協和の實が然らしめたものと云つて宜い。

かうして蒙疆は民族的、政治的に次第に育つて來てゐるのである。

回民の數はまことに少い。蒙疆地區の回民は殆ど北支方面からの移住者卽ち改宗した漢人で

ある。だが偶には西から流れて來た碧眼紅毛のものも見受けられる。これを單なる宗教的信者卽ち回教徒として扱ふか、或は別な民族卽ち宗教民族として扱ふか、玆ではその議論に介入すまい。何れにしても蒙疆の回民は僅か十萬前後の少數で、漢人乃至蒙古人に對して民族的比重を論ずるのは當らない。だが蒙疆の回民政策で忘れてならないのは、この回民が嚴重な戒律生活者である事、そしてこれが寧夏、甘肅、新疆、中央アジアの回教圈に結び付きを持つてゐる事である。このため回教政策は餘程特殊な姿をとつて現はれる。蒙古民族政策に劣らず重要な政策としてクローズ・アップされて來る。この爲め蒙疆民族政策を考へる者は、漢、蒙、回のそれ〴〵の特殊な立場と役割に留意しなければならぬ。こゝが非常に面白いところだ。

內蒙古の話

一、蒙古人と遊牧

陰山々脈の北、內蒙古大草原の中で、蒙古人はどんな生活をしてゐるか。

蒙古人は羊を飼ひ、馬、牛を飼ひ、牧草を求めて轉々と遊牧してゐる。そのためフェルトで造つた移動式の饅頭形の包（パオ）を住居にしてゐる。この蒙古人の包による遊牧生活は餘りにもよく知られてゐる。そして蒙古人男子の大半が喇嘛教に歸依して、全く不生產的な徒食をしてゐることも有名である。內蒙古で生產されるものはたゞ羊、牛、馬の畜產だけで、蒙古人は農耕を知らない。簡單にいへば蒙古人はかくも不生產的で、かくも幼稚で、民族文化的には非常に遲れてゐるといつていゝ。

然しこの蒙古人の遲れた生活はたゞ蒙古人が本來的に遲れた民族であつたからではない。蒙古民族復興に當つては、この蒙古文化の遲れたいろんな事情を尋ねて、そして蒙古人に卽して考へてやらねばならぬ。

第一に蒙古人の遊牧と一言にいふけれど、今日では決して蒙古人は大草原を股にかけた、不羈奔放の遊牧をしてゐるわけではない。

昔蒙古人は精悍な民族であつた。羊群、牛馬の群を追ひ、繁つた草を求めて暮す文字通りの遊牧の民だつた。この全く自由な遊牧の時代には、より豐かな草を求めるためには鬪爭が必要だつた。そのためにはより强力な力が必要だつた。成吉思汗が中央アジアまで馬蹄の下に席捲

したあの武力も、あの覇氣も、あの精悍さもこゝから生れた。

漢人はこのため蒙古民族を戎狄として萬里の長城を築いてこれを防いだ。

だがこの蒙古人の精悍さは、清朝の巧妙な政策によつて骨を拔かれた。清朝は支那を平定した後、蒙古民族は內蒙を六盟四十九旗、外蒙を九盟百十六旗、青海蒙古を二十九旗に別けて自治を許したが、それによつて蒙古民族の分裂政策をとつた。それまでは蒙古民族は「部」を單位に同族が結集してゐたが、これを新に「旗」（ホショ）を單位とさせ、その旗の上に「盟」（チゴルガン）を置いて、旗の間の調整機關にした。この旗が唯一の自治區で、政治組織の單位となつた。旗は一定の地域を限り、遊牧の蒙古人はその旗地の中に駐牧することになつた。つまり清朝はこの旗の程度なら、別段の反撥的勢力にもなり得ないと見て自治を許したのだ。そしてこの旗の長を札薩克（ジヤサツク）と稱んだ。つまり今まで不羈奔放の遊牧を續けてゐた蒙古人は、「自治」のビスケットで旗の中に閉ぢ籠められてしまつた。旗の中に閉ぢ籠められて了へば、最早より豐かな草を追ふため、より強い武力を鍛へる必要もない。そのため蒙古人は往年の精悍さを忘れてしまつた。それからの遊牧は狹い旗の中の遊牧でしかない。現に蒙古人の遊牧を見てゐても、それは只柵を持たない放牧、そして季節的に草を追うて旗の中を移動するといふだけの遊牧である。しかも旗の中の移動にはちやんと一定の習慣的な徑路が決つてゐて、夏と

冬を交互にその間を引越してゐるだけだ。世上で簡單に遊牧と考へてゐるやうなものではない。だから或る旗に就て、或る時期に誰が何處を遊牧してゐるかといふことは、何時でもちやんと判つてゐる。ロマンティックな「遊牧」の言葉は通用しない。

二、清朝と蒙古人

蒙古人の今日を決定した大きな要因は清朝の對蒙政策だ。清朝は蒙古人を旗に閉ぢ籠めて、その牙を拔いたと共に、他方では反對に相當の保護懷柔政策を試みた。その一つは喇嘛教の保護、一つは封禁、一つは結婚政策であつた。

清朝は先づ漢民族が蒙古に入つて土地を開墾することを禁じ、蒙古人の牧畜を保護した。これは蒙古人保護の反面に漢人勢力の北上を惧れたためだつた。だがこの封禁は成功しなかつた。結局漢人の孜々たる努力勉勵のために、また蒙古王公の利害打算のために、幾度か漢人の手から耕作地を蒙古人に還させたにも拘らず、やはり漢人の進出は續いた。

また清朝は蒙古人と漢人の結婚を禁じて民族同化を防ぎ、他方盛んに蒙古王公との間に政略結婚をやつた。清朝が蒙古王公の娘を娶り、蒙古王公に清廷の皇女や皇族の女が降嫁した例は

列擧するに遑がない。かうして清朝と蒙古王公とは親戚關係となり、今でも蒙古王公の滿人に對する感情は良い。

三、喇　嘛　教

喇嘛教は蒙古人の生命の泉であり、精神生活の唯一の糧である。蒙古人の生活から喇嘛教を切り離すことは絶對に出來ない。蒙古人三十萬の內男子十五萬と見て、その過半約八萬は喇嘛だといふ。喇嘛は庙(めう)に入つて只管喇嘛教義に溺れ、朝な夕なの勤行で日を送つてゐる。一人出家すれば九族に佛緣ありといふので、長男以外は殆ど全部喇嘛とし、鍬で土の中の蚯蚓を切れば罪九族に及ぶといつて土を掘らない。だから農耕も出來ない。

喇嘛教は印度佛教に源を發する西藏特有の佛教で、一般衆生は僧によつて教へ導かれるのだから、僧が無ければ苦患の輪廻を脫することが出來ないといふので、僧を以て「無上・自己の師」卽ち「喇嘛」として特に崇敬する。この喇嘛教が蒙古人の間に熱烈な信仰を得たのは、元の元祖忽必烈(フビライ)の時代だつたが、その後蒙古人の喇嘛教信仰は益々盛んとなり、清朝に至つてその頂點に達した。その結果蒙古に無數の庙卽ち寺廟が建立され、內外蒙古に七六人の活佛を取り

卷いて、全蒙古人がこれに敬し佛果を祈つて一生を終る無爲懶惰の喇嘛が氾濫した。喇嘛庙の數は調査數字はないが一旗內約二十個と見て內蒙五十旗に一千個はあらうかといはれてゐる。大きい庙には千人前後、小さい庙にも十人二十人の喇嘛が徒食してゐる。

農耕もしない、何の鑛工業も持たぬ蒙古社會では、この大草原に點在する喇嘛庙と喇嘛庙を結ぶ線こそは蒙古唯一の經濟路線である。

旅する者はこの庙から庙を訪ねて歩く。大草原の中にポツカリと原色の紅白に彩られた庙の大建築が浮んでゐるのは、蓋し草原の奇觀であり魅惑であらう。

清朝は蒙古人の骨を拔くために、この喇嘛教保護政策をとつたといふのが定說である。確にその意圖はあつたであらう。そのため蒙古人が溫和になり、往昔の精悍さを失つたことは事實である。このため今日喇嘛教改革意見がしきりに行はれてゐる。卽ち多數の男子が無妻の喇嘛になるので人口が減り、蒙古の經濟的生產を阻害し、風俗を紊亂し、性病を傳播するなどの缺陷を何とかして速かに改革させようといふので

一、喇嘛教義の合理的改革
一、喇嘛の定員制々定
一、新しい喇嘛の禁止

等々のいろんな意見が出てゐる。

新興蒙疆の大方針として外蒙の如くこれを彈壓することは絶對に排し、喇嘛教の信仰はこれを飽くまで尊重して、只これに漸進的な合理化を加へて行かうといふことになつてゐる。外蒙古人を憐んで、內蒙古人が喜んでゐるのもこゝにある。

だがこゝで注意しなければならないことは、蒙古人の喇嘛にばかりに罪を歸せられない事實である。何も喇嘛になつたばかりで、そのためにのみ蒙古の經濟的生產が遲れてゐるわけではない。同樣に今日の蒙古人の懶惰を以て、清朝の喇嘛保護政策のみを責めるわけにはいかない。喇嘛がかくも氾濫したのは蒙古人の氣儘或は恣意からばかりではない。

蒙古人の本來の產業は原始的な遊牧だつた。その牧畜は奴隷や子供や女の手でも行はれ得るもので、蒙古の勞働力を傾注する必要はない。だから遊牧時代の蒙古では當然勞働力が餘つてゐたわけだ。その勞働力は遊牧鬪爭の武力に動員されてゐた。つまり蒙古人の民族的防衞乃至發展のための鬪爭に向けられてゐた。それが清朝の旗制によつて、遊牧が閉じ籠められ、遊牧のための鬪爭が無くなつてからは當然その勞働力が餘つて來なければならなかつた。蒙古本來の生產形態に比し、勞働力が過剩になつて來たわけだ。卽ち喇嘛によつて蒙古の生產が阻止された半面に、逆に、蒙古固有の生產形態が多數男子の勞働を拒否して、そこに多くの喇嘛が發

生した半面も見なければならぬ。この後の半面を見れば、强ち喇嘛教なり清朝の保護政策なりを非難してばかりはゐられなくなる。私達はそこに喇嘛發生の必然も見なければならぬ。

だからこの懶惰な喇嘛を合理化するには、この過剩勞働力を吸收する方策を考へねばならない。そのためには原始的放牧のみに賴つてゐる本來の粗笨な生產形態を變へさせることが大切だ。同時に蒙古軍乃至保安隊等に、最近の蒙古青年がどし〳〵吸收されてゐる事實もこの合理化の大きな示唆であらう。現に蒙古軍に入り保安隊に入つた蒙古青年は、新興の意氣に燃え新生の喜びに浸つて、その瞳は輝いてゐる。また當面の措置として喇嘛教戒律に適宜の指導を與へて、いま徒食してゐる無數の喇嘛に土を掘り草原を耕すやうにしむけて、僅かでも生產性を與へることは出來ないものか。祈り且つ耕すやうに指導出來ないものか。

何れにしても喇嘛教政策は、蒙古民族政策の最も重大な部分を受持つてゐる。然しそのためには飽くまで蒙古民族乃至喇嘛の實際に卽して、親身になつて考へてやらねばならぬ。

四、蒙古人の富は何處へ（蒙古貿易の話）

蒙古人の經濟生產は原始的な放牧卽ち畜產に盡きる。牛、馬、羊を飼ひ、これを生畜として

賣り、その皮毛を賣る。これが殆ど蒙古人の全生産活動といつていゝ。この外に北邊ダブスノール（鹽湖）はじめ各所の鹽湖からする鹽の採取もあるが、これは極く局部的に過ぎない。

王公は一般旗民から租税として生畜及皮毛を取り立てる外、自分でも相當の畜類を所有してゐる。喇嘛廟も亦一種の寺有財産としてその牛、馬、羊を所有してゐる向もある。また一般旗民からの寄進も大きい。

一般旗民は、或は自分で相當の牛、馬、羊を飼養してゐるのもあれば、或は單なる小作乃至奴隷としてその尻を追つてゐる者もある。この一般旗民の畜産による富は何處へ流れてゐるか。これを買付ける者は漢人商人である。漢人商人に賣却する外に、王公への租税にも流れゝば、或は喇嘛廟への寄進となつても消えてゐる。

ところでこの王公と喇嘛廟に集つた富――富といふべくんば――は何處へ流れるか。それは殆ど總て漢人商人の手に流れ込んでゐる。こゝに蒙古人經濟に於ける漢人商人の大きな姿が浮び上つて來る。

蒙古人は繰返していふ如く、素朴な畜産以外に殆ど經濟生産を持たない。勢ひ蒙古人の生活必需品及食糧まで一切は漢人商人の手から買ふ以外にない。土の何處を耕すでもない蒙古人は自分の食べる穀粉類まで漢人商人の手から買はねばならぬ。蒙古人が必要とする生活必需品及

食糧は總て北京――張家口から糸を引いた漢人商人、所謂買賣家（マイマイチヤ）が供給する。このために買賣家は夥しい物資を、廟から廟を傳つて內蒙奥地へ運びこむ。そして廟の附近に集團的な居を構へて、そこを根城に對蒙古人商業を營んでゐる。この買賣家の集團は大抵廟の附近に限られてゐる。それで廟と廟を結ぶ線が蒙古草原の經濟路線になるわけだ。この買賣家は、そこを根城にテント隊商を組んで大草原の丘を越え、野を超えて包の群を追ひ、その包に相應しいだけの生活必需品を卸して廻る。一と廻りして丁度畜産の出廻る頃を見計つて、再び同じ包の後を追つて行く、そしてこの前卸した必需品の代價の代りに生畜或は皮毛類を受け取つて歸つて來る。大切なことは、この蒙古貿易に於ては、蒙古人は賣るのが先ではなしに、買ふのが先で、買つたうめ合せに自分の畜産を賣り放すといふことである。つまり蒙古人は絶えず買賣家から「掛買ひ」の立場にある。しかも無智な蒙古人は絶えず老獪な買賣家のために、先づ高い必需品を買はされ、その後で畜産類を不當に安い値段で買ひ叩かれてゐる。つまり買賣家は高く賣り付けて、安く買つて來るわけで二重搾取を恣にしてゐる。これは殊に錫林郭勒（シリンゴウル）盟に於て甚だしい。その一番盛んな中心地は貝子府（ベイズ）である。張家口、張北、多倫（ドロン）その他滿洲國の林西、洮南、開魯等から錫林郭勒盟を行商する買賣家の數は概算千五百人といひ、車の上に綿布、縫糸、蠟燭、磚茶（ダンチヤ）、櫛、石鹼、炒米、砂糖、煙草、燒酒、針、碗、麵粉、絹布、マッチ、菓子、

線香その他の必需品を積込んで、毎年五月初め頃から蒙地行商に出で、豫定のコースを經て十月頃にはそれ〴〵根據地に引揚げる。普通持つて出た資本が二倍乃至三倍になつて歸つて來る。

世にこれを物々交換と稱する人もあるが、これは當らない。現實の金錢授受は行はないが、その取引にはちやんと貨幣による計算が基礎になつてゐる。只無智な蒙古人が自分には帳面を持たず、一切を買賣家任せにしてゐて、買賣家の掛賣りしてくれた金額の代償として、畜產類を賣り放つてゐるに過ぎない。

また買賣家は王公及喇嘛廟を大きな顧客としてゐる。その場合の取引は遙かに大きく、時には融資もするので、特別に深い信用關係が結ばれてゐる。だからこれを平たく見れば、蒙古人の富は王公と喇嘛廟と買賣家の三者に三分されて結集してゐるといつていゝ。ところがこの王公及喇嘛廟自身が、買賣家の資本の枷に捉へられてゐる事實からすれば、蒙古人の富は直接買賣家の手に流れるもの、王公及喇嘛廟の手から買賣家の手に流れるもの、この兩者を合して、結局は殆ど總てが買賣家の手に集中されてゐるといはねばならぬ。こゝに私達は蒙古經濟に於ける買賣家の大きな黑い影を見る。殊にこの取引の內、嗜好品の數量一〇パーセント、衣服裝身具一八パーセント、住居及什器一〇パーセント、佛具二パーセント、馬具その他七パーセン

トに對し食料品が實に五三パーセントの多きを占めてゐることは、如何に蒙古人の經濟的生產が低いかといふことをまざ〴〵と見せてゐる。それだけに蒙古人と買賣家の問題は大きな問題である。

五、大蒙公司の活動

買賣家の對蒙貿易に於ける不當な搾取は、何とかして是正しなければならない。私達は先づ低廉な物資を供給してやらねばならぬ。そして蒙古人の生活を豐富にしてやるとともに、同時に高價な必需品の代償として流出してゐる家畜を、蒙古人の手に留めねばならぬ。また安い物資を供給することは、私達の側からしても、逆に安い畜毛皮を得ることになる。だからいま內蒙當面の急務は物價高の訂正にある。この必要は殊に錫林郭勒盟に於て顯著だ。內蒙奧地の物價高は事變による輸送力不足、物資移入に際しこの諸稅累加が原因で、最近蒙疆政權はこゝにメスを入れて、內蒙古人のためにひたむきな低物價政策をとらうとしてゐる。

漢人買賣家に對抗して事變前、察哈爾盟及錫林郭勒盟を舞臺として瓦利(ウツリ)洋行と德華洋行が活動してゐた。何れも外國商人である。瓦利洋行は天津に本據を置き、錫林郭勒盟の東烏珠穆沁(ウジユムチン)

を根據として東阿巴哈那爾（アバハナル）にかけて雜貨を賣込み、毛皮及生畜を買付けて、堅實な經營で買賣家の領域を蠶食しつゝあつた。

これにとつて代つたのが大倉系資本の大蒙公司で、同公司は多倫の出張所のほかに昭和十二年貝子府に阿巴嘎（アバカ）出張所を特設し、そこに蒙古人の必要な必需品をストックし、これを根城に買賣家と同趣向の方法で對蒙貿易をはじめた。その成績は頗る良く、蒙古人への現金賣りの外買賣家と同樣の貸賣り、現物收納をはじめ、殊に興味深いのは元來商賣敵であつた筈の漢人買賣家へ相當の荷が卸されはじめたことだ。つまり買賣家としては大蒙公司の手から買つた方が品物も良く値も安いといふので、若しこれが單に買賣家の不當な利益に奉仕するだけなら意味ないが、面白いことに、大蒙公司が他方で蒙古人に小賣もしてゐるので、買賣家はこれに牽制されて暴利が貪れない羽目にあるといふ。早い話が、蒙古人の最重要必需品の磚茶にしても、事變前までは買賣家の手で漢口茶が獨占してゐたが、大蒙公司は內地の靜岡磚茶を安く賣つてゐる。磚茶は蒙古人に一日も缺かせない榮養飲料になつてゐて、漢口磚茶は一尺五寸位の不整長方形をなし、靜岡磚茶は切目の正しい長方形をしてゐる。蒙古人は何れもこれを削つてお茶を出すのだが、大蒙公司は漢口磚茶が一枚二圓二三十錢のところを、靜岡磚茶を一枚一圓二十錢の廉價で賣つてゐる。このため靜岡磚茶は蒙古人の間に飛ぶやうに賣れてゐるが、これを卸

して貰つた買賣家も同公司の小賣に牽制されて、さすがにこれを高く賣ることも出來ないでゐる。かういふところに大蒙公司の有効な牽制が利いて來てゐる。

大蒙公司の前は買賣家の聚落である。背後離れた所に大きな貝子府が建つてゐる。廟の富を吸收する買賣家、その間に割り込んで行く大蒙公司——この三つのコントラストは又となく面白い風景である。買賣家は大蒙公司を煙たがつてゐる。然し大蒙公司は敢て買賣家を潰さうとしてゐるのではない。恐らく潰さうとしても潰し切れない。私達は私達の手で、大蒙公司に倣つて、どし〳〵安い商品をこの內蒙奧地に送り込まねばならぬ。それは買賣家を追出すためではなしに、商品の力を以て買賣家を强力に是正し、互に協和の氣持で行かねばならぬ。對蒙貿易は半年や一年の帳簿尻を見ては出來ない。一年乃至二年の貸賣を資本にして、國策商賣の立前で行かねばならぬ。これがやがて、否、單的に蒙古民族政策に寄與するのである。

西北への凝視

一、回民の立場

新興蒙疆は北の外蒙に對立すると同時に、更に西北への思慕を祕めてゐる。西北への思慕で重要な役割を持つのは回教問題である。

蒙疆に於ける回教徒は約十萬、回教寺院（淸眞寺といつてゐる）の數は六十といふ。全世界三億七千萬人の回教民族のうち、この十萬足らずは殆ど物の數でないかも知れない。然し蒙疆と支那西北、卽ち新疆、靑海、甘肅、陝西、寧夏を結ぶ紐は實にこの回民である。その意味でこの回民政策は蒙疆で無視出來ない重要政策の一つになつてゐる。

蒙疆から西へ、支那西北から中亞を經て、アラビアのメッカに通ずる「世界の屋根」は回教世界である。はじめ光は西方から東方に向つて流れた。佛教も景教も回教も西域文明は總て、

この中亞の沙漠を渡り駱駝の背によつて東へ齎らされた。大同の石佛も、この所產であつた。大同の石佛を見る時は、そこに西方政策の明日の指標を認識しなければならぬ。いまもなほ沙漠を越えて東からと西からとの交流が、この回教圈を底力强く流れてゐる。蒙疆はその回教圈の東端に位してゐる。

この回教圈を支配するものがアジアの王者であらう。西藏は英國が手に收め、新疆はソヴエトが征服した。對支聖戰によつて、奧地に追込まれた蔣介石は、この西北邊疆をソヴエトに賣込まうとしてゐる。甘肅、寧夏、陝西の三省を西北特別行政區域とし、その主都は蘭州とした。その主席はソ聯の推薦により、行政委員は全部共產系となつてゐる。そして外蒙と相俟つて蒙疆の京包線を逆に北、西、南から包圍する作戰をとつてゐる。この西北邊疆に於ける赤色ルートに對し皇軍は累次の爆擊を加へてゐる。だが私達は同地域に於ける回民を爆擊してゐるのではない。回民は反共の精神が根强い。この世界の被壓迫民族に對し、ムソリニ首相は回教擁護の獅子吼をなした。東に於ては回民は日本へ期待と信賴を寄せてゐる。回民は宗教民族として獨立を冀望してゐる。

回教軍と回民は區別しなければならぬ。回教軍は寧夏の馬鴻逵、馬鴻賓をはじめ所謂軍閥五馬の謂であるが、これはいまだに蔣介石の陣營に立つてゐる。だが蔣介石とソ聯の合體が促進

されるに從つて、この五馬の去就は微妙なものを加へて來る。

これに對し回民一般は回教軍とは全く別な歩みを續けてゐる。

二、包頭の背後地

蒙疆京包線の西端包頭には、西方からの物資が集中して流れ込んで來る。近い所では同じ烏蘭察布盟の五原（包頭と五原の中間の安北までは昭和十四年四月皇軍が占據した）と臨河方面から。遠くは寧夏、甘肅、新疆、青海等から。

この包頭の背後地の事情を調べて見よう。

五原・臨河　五原、臨河は黄河に近い水田地帶で、國民政府の手で大規模な墾務計畫が進められてゐた所。包頭五原の中間安北まで昭和十四年四月皇軍が進擊して、これを確保した。五原、臨河はいま一息、やがては同方面の治安も確保されるに違ひない。臨河の西北方善壩及蠻會は有名な天主教都市で、天主教徒が文字通りに「沙漠の中の花園」を築いてゐる。五原、臨河を通じて山羊皮二、五〇〇元、犬皮四、〇〇〇元、牛皮、一、五〇〇元、甘草一萬斤、阿片四萬兩の他、獸毛八十萬元を産する。所謂五原羊毛の産地だが品質は粗惡である。

甘・寧・青　甘肅は人口七百萬、白米、粟、小麥、高粱、玉蜀黍他畜産が大きい。寧夏も人口百三十萬に近く白米、粟、小麥の他畜産を主要産物としてゐる。青海は人口二百七十萬、小麥、粟、畜産が出る。この甘、寧、青を通じて畜産額は

牛	四五五、〇〇〇	羊	五、二三〇、〇〇〇
馬	二四〇、〇〇〇	豚	五三〇、〇〇〇
驢	二九、〇〇〇		
羊毛	二五〇、〇〇〇 擔	駱毛	一〇、〇〇〇
馬毛	六、〇〇〇		
毛皮類	一、〇〇〇、〇〇〇元	生山羊皮	四〇〇、〇〇〇
生羔羊皮	一〇〇、〇〇〇	牛皮	三〇〇、〇〇〇
馬皮	三〇、〇〇〇		

となつてゐる。

こゝで氣を付けねばならないのは、この西北邊疆に於ける民族構成である。陝、寧、甘、新青の西北五省で總人口二千五百萬のうち、漢人千百萬人、回民九百萬、蒙古人百萬で、如何に回民の勢力が強いかゞ判らう。蒙古人百萬は、蒙古民族政策が單に蒙疆北方の對外蒙政策のみ

でなく、回教政策ほどではないが、やはり西北政策に相當程度寄與することを物語つてゐる。

これを內譯して寧夏は百三十萬人のうち大部分は漢人で、回民は八萬人、蒙古人千人、青海は二百七十萬人のうち回民百萬人、蒙古人七十萬人を算し、殊に蒙古人の力が强い。新疆は二百三十五萬人のうち回民二百萬人で蒙古人二十萬人、滿人五萬人で、回民が壓倒的である。

この西北に九百萬の回民がゐることを忘れてはならぬ。

三、羊毛と回民

蒙疆の回民は經濟的にも、文化的にも地位が低い。飯店、運送業、商人、苦力等を業としてゐる。今事變により蒙疆政權が樹立されるや、昭和十二年十一月二十二日西北回教民族文化協會を結成し、張家口でその大會を開催、新政權萬歲、民族協和を誓約した。

西北回教民族文化協會は、沿線都市ごとに回教徒の團結組織を結成し、回教青年團を組織し、日本語學校を設立し、商業資金を設定するなど着々活潑な更生運動を續けてゐる。

こゝで興味深いのは羊毛と回民の問題である。

北支に集る羊毛三千五百萬斤のうち寧夏、甘肅、青海、新疆の西北奥地から、蒙疆を通じて

流れ込むもの實に二千萬斤に上つてゐたが、この二千萬斤こそは大部分回民が駱駝の背に乘せて運んでゐる。事變になつてからこの二千萬斤は現在では半減してゐるが、兎に角西北邊疆と蒙疆が羊毛と回民によつて結ばれてゐる大きな事實だけは留意しなければならない。

西北邊疆から回民は駱駝の背に羊毛を積んで、蔣介石軍の陣營をすり拔けながら廻り廻つて蒙疆の京包線西端包頭へ、包頭へと運んで來る。この底力は計り知れないものがある。回民は包頭で羊毛を賣り、雜貨を買ひ込んで再び西北邊疆へ歸つて行く。この商品交易と、人の交流は又となく貴重である。これを通じて蒙疆と回教圈の交流が音もなく駸々乎と進められる。私達はこゝに着目しなければならぬ。同時に日本の羊毛買付け及雜貨賣込みの大きな機會であることも留意しなければならぬ。そこにこの問題の面白さがある。

四、回民問屋

五原、臨河、西北五省から集つた羊毛はどういふ徑路で捌かれるか。

五原、臨河の所謂五原羊毛は漢人が駱駝の背によつて運び、包頭の漢人問屋の手で捌いて行く。

これに對し西寧羊毛はじめ西北五省に產する羊毛は、總て回民がこれを包頭に運んで來る。皮筏や舟運で、最近は事變のため黃河が杜絕したので陸路駱駝の背に載せて、オルドスの沙漠を越え、これを迂回し或は更に西方のアラシャン沙漠を越え、或時は包頭を指呼のうちに見ながら匪賊を避けて險山山脈を大迂回しながら、包頭へ、包頭へと集つて來る。

昨年度は事變のため包頭の羊毛集荷は半減したが、それでもなほこの匪賊の重圍を衝いて包頭へ羊毛が集つて來る、その底力は驚くべきものがある。いまオルドス沙漠の彼方、寧夏から五原にかけて包頭へ流れ出づべくして留つてゐる滯貨が實に二千萬斤、殆ど一ヶ年分のものがあるといふ。これを抱へて五原、寧夏方面では何時か日本の手で治安が確保されるのを頻に待望してゐるといふ。

包頭へ到着した西の訪客・回民は、それぞれ包頭市內の回民問屋に荷を持込んで宿泊する。回民は回教の嚴しい戒律によつて、回民の家でなければ飯を食はない。豚を忌み羊を常食に用ひてゐる。宣誓、祈禱禮拜、斷食、巡禮、喜捨の五つが回教の戒律で、每日五回、曉天、正午、午後、日沒、初夜の五回、双手、顏、身體を洗滌し、西方メッカに向つて跪坐し、匍匐し、コーランを誦じて神に祈禱し禮拜する。回教歷の第九月ラムザン第一日から三十日間は、日の出から日沒までは一適の水、一粒の米も口にせず斷食して神の恩寵を祈禱する、その狂熱的信仰

は想像以上のものがある。このため西からの訪客が包頭へ來ても、回民問屋以外には荷物を持つて來ない。

包頭の回民問屋では、駱駝は裏の廣場に休ませ、回民は問屋の同じ屋敷の宿屋に泊る。問屋は荷を受けると先づその代金を假拂ひしてやる。それを貰つて回民は奧地へ持つて歸る雜貨類を買ひこむ。綿糸布、磚茶、蠟燭、マッチその他諸雜貨等、綿糸布には日本製品が多いが、諸雜貨は總て上海の英國資本から供給されてゐる。雜貨類を買込んだ回民はゆつくり問屋に泊つて再び駱駝の背に雜貨を載せて奧地へ歸つて行く。この時問屋は宿泊料を儲け、駱駝の飼料も取り立て、その上に羊毛の代價は殆ど荷主の回民の知らないうちに一方的に決定する。無智な回民は、そんなことだと思ひなして與へられるまゝの代金を懷に、その金で一杯に雜貨を買つて奧地へ歸る。奧地へ歸ると、この雜貨が包頭仕入値の二倍乃至三倍の高値に賣れるのである。西からの訪客もぼろいが、問屋はなほぼろい。

いまに、西の治安が確保される時が來たら、恐らく日本商品がどつと西へ向つて流れ込むだらう。昭和十三年末の調査で、包頭には二百五十萬圓の雜貨ストックが氾濫してゐる。事變後一ヶ年で百萬圓の急增である。これはみな奧地貿易の思惑で殺到したものだ。そして五原——寧夏の羊毛ストックと睨み合つてゐる形である。匪賊地帶をはさんで、兩方から商品があふれ

かゝつてゐるのである。だが皇軍の手で治安の確立を待つのでなく、私達は皇軍の進む前を、平和の商品交易を通じて、これをリードしなければならぬ。回民問屋を排撃することは策を得たものではない。回民には回民の風習がある。それは飽くまで尊重しなければならぬ。當面この回民問屋のぼろい儲けは是正出來なくとも、少くとも西への土産に、英國商品でなく、日本商品を持たせる工夫はないものか。蒙地商業と同様に、かういふ所に國策商業が祕められてゐる。さらに雜貨を日本の手で奥地へ輸出できれば、それだけ高く羊毛を買つても引合ふわけだ。羊毛買付けのために、プール計算にして、先づ雜貨の賣込みを考へる必要がある。羊毛だけを安く買ひ叩かうとするから無理がある。

蒙疆政權は事變後羊毛の一手獨占權を日系の羊毛同業會に與へ、その手で特殊需要に買付させてゐたが、羊毛同業會は結局お役所仕事で業績振はず、昭和十三年十二月末遂に同業會は解散を命ぜられた。爾來、羊毛買付けは誰でも自由となつたが、早くも鐘紡は津田信吾社長の覇氣をそのまゝに、包頭でこの羊毛買付けと雜貨賣込みの兼營企業を目論んでゐる。ほかに個人企業粟屋磯熊氏の粟屋公司が同じ試みを進めてゐる。同公司は從來漢人專門に五原羊毛を主として買付けてゐたが、これを寢泊りさせ、前貸しまでして漢人の誘引を圖つてゐるが、最近では黄河畔から回民の駱駝隊を引寄せて、僅かづゝながら回民引寄せに成功してゐる。何分に

も西からの羊毛は目方をつけるために土砂を二三割も混入してゐるので、荷受けしてからの歩留り檢査は非常に厄介だが、これを勵行することによつて奥地で土砂を混ぜても無駄だといふことが少しづゝは理解されて來てゐるらしい。それにしても回民を直接誘引することは仲々困難で、そこはやはり將來回民問屋を適宜に合理化することが必要だらう。

包頭に於ける回民問屋は左の四店が獨占的である（昭和十三年九月調査）

寶順公司

一、代表者　丁達三
一、使用人　一三名
一、營業概況
寧夏、蘭州、凉州、甘肅、青海を販路とし、一年三次往復、駱駝一頭積載三百斤。牛馬車は使用せず。

三義棧

一、代表者　費占福
一、使用人　一四名
一、營業概況

駱駝により吳忠堡との間の取引――雜貨四五〇擔、羊毛三一四件の商談、駝毛四一件、山羊皮二、二六七張、羯羊皮二三一張

德順公棧

一、代表者　李士鄉
一、使用人　一三名
一、營業概況
駱駝及舟により吳忠堡との間に雜貨四三〇擔取引、宿屋五軒を經營（二〇〇人宿泊）

聚盛公

一、代表者　陳子壽
一、使用人　一二名
一、營業概況
寧夏、凉州、蘭州、青海方面へ雜貨一萬擔、羊毛百萬斤、山棉羊皮數萬張（但し以上は事變前の數字で最近は振はず、現在では雜貨百擔、羊毛十四萬斤、着々舊狀に復しつゝあり）

右のほか漢回兩者を含めて包頭の羊毛取扱業者は中位のもの十軒、小三十軒あるが、右の四大問屋に較べれば物の數に入らない。

五、包頭の羊毛事情

包頭は西北貿易の據點である。黃河の水運によつて寧夏、甘肅、青海の羊毛產地に通じ、全支那第一の羊毛中繼市場で、事變前は天津出廻數量の六割乃至七割を包頭で集散した。事變前羊毛だけで二千五百萬圓を取引し、その他の物資を併せて貿易額九千萬圓を突破し、小上海の稱があつた。

舟運は包頭から黃河を上り、噔口（寧夏省）橫城（伊克昭盟南端）に至り更に溯つて蘭州（甘肅）に通じてゐた。包頭橫城間は一、四〇〇支里、上り四十日、下り十日乃至二週間、橫城から蘭州までは小舟が通ずるが蘭州から上流卽ち西寧（青海）までは筏便が下るだけである。この舟運によつて黃河上流の物產は黃河を流れて包頭埠頭に集つて來る。しかもこの包頭から下流は二三ヶ所の大きな瀧があつて、絕對に舟運が利かないため、荷物はどうしても包頭に陸揚げされざるを得ない。包頭に陸揚げされた荷物は京包線で一路天津へ運ばれる。包頭はこの要

衝の地に位してゐるわけである。

黄河の舟運によらないものは駱駝によつて陸路沙漠を越えて包頭に集る。冬期黄河が結氷する間も、舟運は駱駝に代へられる。かうして舟運と駱駝によつて包頭は西北邊疆と密接に結びついて來た。

興味の深いのは皮筏である。牛皮または羊皮で造つた浮袋を綴合せたもので、中に羊毛を詰め込みそれを幾つも幾つも並べて、その上に細い木の枝の格子を置き、牛皮又は羊皮を格子に搦めたものが皮筏である。メソポタミアでも同じ皮筏をチグリス河に浮べ、トルキスタン、印度方面でも同様の風景が見えるが、これなども西方文化の移動を教へるものであらう。寧夏、甘肅から羊毛を詰め込んで來た皮筏は包頭に陸揚げされると、羊毛を取出した後牛皮または羊皮はこれを延して鞄などに仕立てゝ包頭の町で賣つてゐる。この舟運、皮筏に對抗して滿鐵が吃水の淺いプロペラ船を建造したが、事變のため今は空しく黄河畔に雨曝しになつてゐる。

昭和十二年包頭に集つた産毛の集散量（包頭皮毛同業公會調査）は

西寧羊毛　約三、〇〇〇千斤

其他羊毛　約五、六〇〇

（内蒙二〇％、寧夏二〇％、五原四〇％、榆林二〇％の割合）

羊　　約一、三七〇千斤

（五原二〇％、榆林三〇％、神木三〇％、王爺地一〇％、寧夏一〇％の割合）

駱駝毛　約一、五〇〇

（内蒙五〇％、王爺地三〇％、河西一〇％、西洛一〇％の割合）

黒山羊毛　約六〇〇

（五原二〇％、榆林三〇％、神木四〇％、寧夏一〇％の割合）

白山羊毛　約三〇〇

（五原五〇％、寧夏五〇％の割合）

となつてゐる。これは昭和十二年半ばに支那事變が勃發したため後半期は荷が動かず、事變前平時の三分の二程度に相當してゐる。このほかに西寧羊毛約五、六百萬斤が不思議に包頭を經ないで天津に直送されたことがあつたが、これは西北の回教軍の馬鴻逵、馬鴻賓等が稅金代りに徴收したものだつたさうである。

産業の話

蒙疆地域の産業資源は畜産、鐵、石炭の三者が代表的である。これは日、滿、蒙、支のブロック經濟に於て特に重要な意義をもつてゐる。

畜産は蒙古民族政策の一翼としても重要な役割をもつてゐる。

鐵は京包沿線宣化の龍烟鐵鑛、石炭は大同の大同炭礦が殆どその全部といつてよく、この二つは既に日本生産力擴充計畫の一環として現實の日程に上されてゐる。

その他農産物、阿片、石綿、石墨、鹽、雲母等々がある。

一、畜　産

蒙疆の畜産は廣大な大草原をそのまゝの大牧場とし、天然の利に惠まれてゐるといつていゝ。

あの羊の一匹も居なかつた濠洲が、今日の羊毛産地の大をなしたのを思へば、將來百年の後に蒙疆が東洋の大牧場にならないとはいへない。內蒙大草原は比類ない廣大な自然の牧場だ。

だがあの大草原の上に、今日の狀態ではまだ〳〵粗笨な放牧で、面積に比して家畜の頭數も意外に尠い。內蒙古地帶に於ける牧畜は、內蒙古人の原始的な放牧に委され、一定の牧場もなく雪害や狼害から保護する畜舍もなく、飼料の乾草の貯藏もない。文字通りに手をかけない野育ちの放牧である。內蒙草原を自動車で走つて見ると草原の彼方、緩い丘の背に白い虱のやうな群が蠢いてゐる。近寄つて見ると羊群である。柵もない。監視人もゐない。何日間といふことなく、誰もこれを見張りに來る者もない。大草原は內地で考へてゐるやうな草原ではない。內地で草原といへば、腰を下ろして休めるほど草が密生してゐるのが常だが、蒙古大草原は如何にも草が疎らなのに意外の感に打たれる。だがこの疎らな草を毟つて食ひ、雪害に堪へてほんたうの野育ちで育つた蒙古馬は、さすがに一週間飲まず食はずに走つても倒れないといふ。この强靱さは內地の馬には到底見られない。これは蒙疆には蒙疆の自然に卽した畜産計畫が樹てられなければならないといふことを敎へてくれる。

蒙疆畜産統計を左に揭げる。

蒙疆家畜統計（昭和十一年調査、蒙疆聯合委員會の蒙疆概觀に據る）

牛	五六〇、〇〇〇	騾	九六、六〇〇
馬	五〇〇、〇〇〇	驢	二七五、〇〇〇
緬羊	三、九五五、〇〇〇	駱駝	五二、六〇〇
山羊	八九四、七〇〇	豚	五四〇、〇〇〇
合計	六、八七三、九〇〇		

家畜輸出統計（同右）

牛	五八、三〇〇	緬羊	六三〇、五〇〇
馬	一五、一〇〇	山羊	一五二、〇〇〇
騾	四、八三〇	駱駝	二〇、六三〇
驢	七、九五〇	豚	一〇八、〇〇〇
合計	九九七、二一〇		

畜毛統計（同右）

種別	生産及移入數量	消費數量	輸出數量	主要仕向地
羊毛	一三、四八六、〇〇〇 瓩	一、三一七、九〇〇 瓩	一三、二六八、一〇〇 瓩	北京及天津
駝毛	二、〇六九、四〇〇	一九、四〇〇	一、七四五、〇〇〇	同
馬毛	二五、〇〇〇	二、五〇〇	二三、五〇〇	同
豚毛	三七、五〇〇	四、五〇〇	三三、〇〇〇	同
總計	一五、六一七、九〇〇	一、二四二、三〇〇	一四、〇六八、六〇〇	

畜皮統計（同右）

種別	生産及移入數量	消費數量	輸出數量	主要仕向地
牛皮	六六、三〇〇 枚	一七、八〇〇 枚	四八、五〇〇 枚	北京及天津
馬皮	二二、二〇〇	五、四九四	一五、一〇〇	同
羊皮	九七四、二〇〇	一八八、〇〇〇	七八六、〇〇〇	同
犬皮	四七、二〇〇	七、三〇〇	三九、九〇〇	同
其他皮類	二七一、五〇〇	五四、三〇〇	二七、二〇〇	同

總計	一、三八一、四〇〇	二七二、八九四	一、一〇六、七〇〇	

蒙疆の牧畜を地域的に見ると、京包沿線特に察南、晉北兩地方は主農副牧で、家畜は主に農耕用役畜として使用されてゐる。放牧は少く、空閑地は農耕地に轉化してゐる。

京包沿線以北、特に察哈爾盟を中心とした地域では、蒙古人は漢人の農耕進出のために放牧地が狹められ、その結果として定着的な集約的な牧畜を行つてゐる。漢人の感化によつてそこでは畜舍も設けられ、乾草の貯藏も行はれてゐる。大體に於て半農半牧、或は主牧副農といつてよく、その畜產は漢人と同樣の商品生產の域に達してゐる。また同地方の漢人は豚を多く飼つてゐるが、これが純蒙古人地帶に行くと豚は全く見られない。

右の兩地帶から北へ、主として蒙古聯盟自治政府管內の所謂內蒙古大草原に行くと、こゝは農耕は全く無く、總てが放牧生活である。こゝは蒙古人の遊牧地帶である。錫林郭勒盟及烏蘭察布盟がこれに當る。

この地帶の蒙古人は一戶當り五人家族として羊五十頭、牛八頭、馬二頭あれば食つて行けるといふ。羊は主として自家消費とし、羊肉、羊乳は蒙古人の重要な食料となり、羊皮は衣服に、羊毛はフエルトに造り、包（パオ）の被覆に用ひられる。商品生產としては牛と馬が主で、殊に大

草原を疾驅して見ると牛よりも羊よりも馬の多いのが目につく。これは統計數字の謎である。

蒙古大草原で牛や馬や羊の實數を數へた者は誰もゐない。みな推定數字に過ぎない。例へば羊を見るがよい。前揭の統計では三百九十五萬五千頭となつてゐる。これは極く最近羊毛の出廻量から逆算した一番正確らしい數字となつてゐるのだが、他方に蒙古聯盟自治政府の印刷物を見ると、實に千四百萬頭と記してある。どこをどう押してかういふ數字が出たのか知れないが、何れにしても推算なのだから致方ない。

ところが更にもつと信ずべき推算によると、蒙疆全體の羊の頭數はどうやら三百萬頭前後と推すのが一番正確らしい。だが三百萬頭にせよ、三百九十五萬五千頭にせよ、何れにしてもこの數字の相違によつて蒙疆の畜產政策を兎や角變へる必要はない。畜產政策の重點はさういふこまかい數字的穿鑿にはなくて、もつと現實の手近な大方針から出なければならぬ。

先づ蒙古人の粗笨な遊牧に若干の合理的施設を加へねばならぬ。寒氣、飢渴、疾病、狼害のため家畜の斃死が甚だしい。事變前の調査だが、日本では羊は百パーセントの繁殖率を見せてゐるのに、錫盟內の最も文化の高いブリヤート・モンゴールの場合でも七〇パーセント、その他の一般蒙古人の間ではその半分の三五パーセントの見當でしかない。

これに對し消耗率は同じくブリヤートの場合、販賣及食用が九・五パーセント、病死、狼害、

凍死その他が二五パーセントに及んでゐる。差引增殖率は結局三五・五パーセントの低位にとどまつてゐる。この場合も一般蒙古人にあつてはその半分の增殖率と看做してよろしい。

ブリヤート蒙古人家畜增殖統計（蒙古聯盟自治政府・昭和十三年調査）

	繁殖率	減耗率				差引增殖率
		販賣	食用	病死	狼害	その他（凍死）	
羊	七〇%	三・五%	六・〇%	一〇%	一〇%	五・〇%	三五・五%
牛	六〇	三・〇	一・〇	六・〇	三・〇	四・〇	四三・〇
馬	五〇	三・〇	二・〇	八・〇	五・〇	二・〇	三〇・〇

內蒙奧地の物價高、供給必需品の値上りは當然蒙古人の手からより多くの羊、馬、牛を奪つて行く。このためにも奧地の低物價政策は畜產政策の一環としても考慮されなければならない。殊に錫盟では牧畜が唯一の生業であるだけに、高物價を補ふためには益々多くの生畜、獸毛皮を賣り放たねばならなくなる。昨年來滿洲國の買付のため張家口を經ないで、奧地からそのまゝ滿洲國へ輸出された畜類も莫大な數に上り、このため最近では蒙疆政權が嚴重な監督を加へはじめてゐる。

物價高の訂正のためには買賣家の合理化と、諸稅累加の弊を矯めねばならぬ。

當面の畜產施設としては、ごく簡單な畜舍の設置、乾草の貯藏などを考へてやらねばならぬ。これを蒙古人を敎育して自治的にやらせるのでは恐らく百年河淸を待たねばなるまい。よろしく私達の手で、これらの施設をどし〳〵講じてやるべきだ。やがてこれは結構安い豐富な畜產として私達の手に還つて來る。

蒙疆聯合委員會はいち早く昭和十三年十月蒙疆畜產政策要綱を決定し、畜產振興に努力を續けて來たが、昭和十四年五月十九日軍、官、民を打つて一丸とする產業振興會の第一回總會を開き、更に具體的振興案を決定した。昭和十四年大雪害で受けた家畜被害を急速度に補塡し、振興を期さうといふにあつて

一、雪害防除の必要上冬營地を設定し飼料を貯藏すること。

一、羊と馬の增殖に重點を置き、牧草を增すため多數の井戸を掘ること。

一、傳染病を防ぐため六月一日より厚和に蒙疆家畜防疫强化所を設立し、防疫員を養成すること。第一回養成員は漢人二一名、蒙古人一九名とす。

一、狼害を防ぐため每冬大掛りな狼狩りを行ふこと。

等の方針を決定した。

二、獸毛及毛皮の輸出取締

蒙疆聯合委員會は昭和十三年十二月通貨取締令と共に、獸毛類輸出取締令及毛皮搬出取締令を改正し、獸毛及毛皮搬出の取締に乗出した。これは蒙疆の重要物資たる獸毛皮を統制し、物資統制の側から資本逃避を防止し、外貨の獲得、資本の蓄積を促進せしめようとするにある。

獸毛類は從來「輸出を統制するため一定の期間を指定し、これが輸出を行はしめ」てゐたものを、「地域外に搬出せんとするものは蒙疆聯合委員會の許可を受くることを要す」となして、羊毛同業會の獨占權を否定し、許可を得れば誰でもこれを許す建前に換へた。また毛皮類は全部の毛皮及皮革を許可制下に置いた。許可の條件として買付地、仕向地を明瞭にし、必ず圓爲替または外國爲替を取組ましめ、その爲替はこれを蒙疆銀行に賣却することを絶對條件とした。つまり物資を出し放しにすることを嚴禁してゐるわけだ。張家口から京包線を北京に出る時、八達嶺の手前で蒙疆聯合委員會の役人が「毛皮類をお持ちではありませんか」と列車中を調べて廻つてゐる。

三、大同炭

蒙疆の石炭は大同炭一つといつてよい。大同炭こそは我が國の石炭不足を救ふ役割を帶びてゐる。その炭田は埋藏量無慮四百億トンと推定され、殆ど無限の打出の小槌の感がある。いま大同炭は時局の求めに應じて增產又增產を續けてゐるが、現在のところではその埋藏量に較べれば蚊の涙ほどでしかない。

大同炭の問題は、そこから石炭が幾ら掘れるかといふ問題よりも、掘つた石炭をどれだけ內地まで運べるかといふ問題にある。

採掘の問題は、なるほど、現在でもエンジンが足りないとか、ロープがないとか、必要の資材の不足が託たれてはゐる。だが採掘の施設は比較的容易に整備し得られる見透しにある。ところがその輸送の問題は恐らく致命的といつていゝ程の大問題で、現在三千萬トン輸出計畫が一應机上案として出來てゐるけれど、ではこれを輸送するのにレールを引かねばならぬが、渤海灣まで繫ぐ六百キロのレールは何處にもない。その上を走らせる貨車及機關車は、內地の鐵道省及滿鐵を幾ら動員しても間に合ふ見透しはない。つまり大同炭の問題は採掘になくて輸送

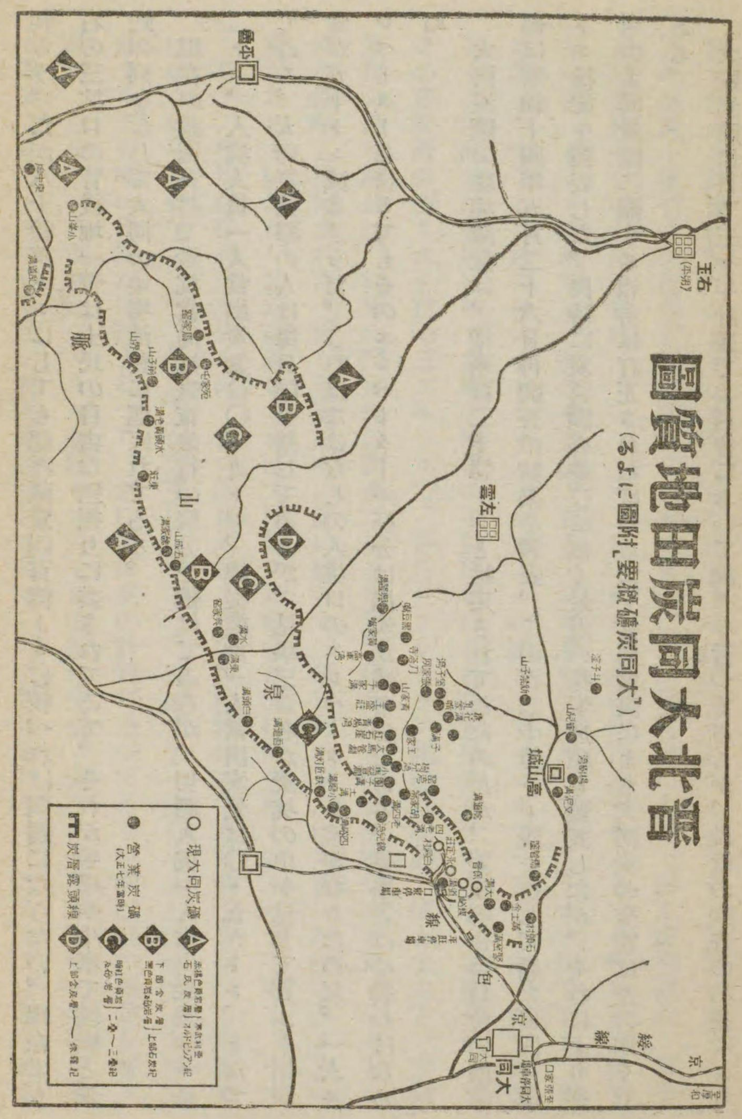
にあるわけだ。

大同炭田は京包沿線大同の西南、自動車で約一時間の所、幅は十七キロ、縱は百十キロ、面積千八百七十平方キロにわたる大炭田だ。稼行出來る炭層は總數七層、厚さ一・二メートル乃至五・二メートルの石炭層が七層にわたつて北から南へ細長く走つてゐる。

炭質は强粘結炭で、灰分少なく、發熱量高く、火着き火持ちともに良好で、工業炭としても家庭用炭としても極めて優良である。石炭坑につきもののガス發生がなく、湧水もなく、坑内は杭木もなくて極めて明朗である。坑内で焚火が出來る、嘘のやうな炭坑である。

同炭礦は現在永定莊坑、煤峪口坑、保晉坑の三坑から掘つてゐるが、昭和十二年十月皇軍が接收して以來昭和十三年末まで一年三ヶ月の間に、永定莊口は三十六萬餘トン、煤峪口坑は二十五萬餘トン、保晉坑二十六萬トン、合計八十七萬六千百二十九トンを出炭した。接收後最初の月は僅か一ヶ月一萬トンに過ぎなかつたが、昭和十三年十二月には一ヶ月十萬トンの出炭成績にまで漕ぎつけた。

同炭田は往昔より到るところに露頭が顔を出してゐるため、土民が自由に採掘し、約二十年前から支那の炭礦者が企業化さうとして成らず、十年前から山西當局の手で開發に當つたが、それでもせい〳〵年產二十六萬五千トンが最高記錄だつた。如何に最近の出炭記錄が多いか〻



判らう。だが八十餘萬トンにしても總埋藏量四百億トンに較べれば問題にならない。現在でも右の三坑口の背後地一帶は土民の自由な狸掘りに委されてゐて、それが手車や牛車で蜿蜒と長蛇の列をなして大同の地場消費に運ばれてゐる。

現在の設備資材で炭坑當局は晝夜兼行の努力を續けてゐるが、切羽入坑一人當出炭量は一日二トン、入坑人員一人當出炭量は〇・九トン、總從業員一人當出炭量は〇・五五トン、となつてゐる。大同炭見學の人は毎日踵を接してゐるが、見學三百名が炭坑の中を見せて貰ふと出炭量が五十トン減るさうだ。これはなけなしの入坑口のエレベーターを塞がれるためだ。一人エレベーターを借りてもそのエレベーター一杯分は出炭が減るのである。見學者は心得ねばならぬ。

大同炭礦の總埋藏量は、從來百二十億トンと推定されてゐたのだが、蒙疆聯合委員會の產業部は昭和十四年五月二十六日再調査の結果を發表、この百二十億トン說を排して新たに四百億トン推定を發表した。同時に炭質調査並びに極く最近の採炭成績も發表したが、それにより從來の大同炭礦に關する報告は訂正されねばならぬ。當局發表による大同炭の全貌は左の如くである。

大同炭礦は目下三ヶ年計畫で委員會において調査を行つてゐるが、最近の調査の結果により

同炭礦は埋藏量に於ては從來の推定を遙に凌駕する埋藏量を有するのみか、炭質に於ても從來の風說を裏切り大部分が製鐵用炭に絕對不可缺の强粘結性炭にして、而も直接液化、完全瓦斯液化並びに石油合成法（フィッシャー法）何れの液化法にも完全なる適應性ある性能を兼ね備へることが判明し、同炭田が量、質ともに世界的大炭田であることが立證された。現在調査を完了した鑛區は六ブロック（一ブロックの廣さ十二キロ平方）であるが、調査の結果その埋藏量は最近に至り從來の炭層の下層に更に八枚の炭層の存することが發見された。この新炭層の廣さは二百十三ブロックで、若し一ブロックの埋藏量を約二億とすると、大同炭田の總埋藏量は、從來の門倉氏の調査に基く推定埋藏量百廿億噸を遙かに凌駕、少くとも四百億噸と推定された。而も某權威者の說に據ると、新炭層の下には尙黃河河畔に及ぶ大炭層があるといはれ、之が確認されれば大同炭の埋藏量は正に無盡藏といふべきである。

目下の採炭進捗狀況を見るに、まづ保晉炭鑛までの狹軌條は本年五月廿二日を以て廣軌條に引き替へを完了、日產千五百噸の發掘が可能となり、勞働力さへ充分であれば六月下旬豫定通り千三百噸の出炭が可能となつた。次に本年度の計畫に上つてゐる白洞村鑛の開發も着々進捗、永定莊、白洞村間のレール敷設も六月廿日頃迄に完成、直ちに日產五百噸の增產を見る豫定である。その他各礦の採掘進捗狀況を見るに、大同におけるコールカッターは一臺當

り五百乃至一千噸の能力發揮可能となり現在の二臺の增設に就ても各方面に手配中で、五臺を增設すると大同だけで日產五千噸、產出は苦力力の增減に影響なく可能の見込みである。

炭質

A 粘結性

（イ）ジュラ紀層炭は非粘結性で稀に弱粘結性のものを發見出來る。

（ロ）石炭紀層のものは全部强粘結性のものである。

之を總括するに炭層は上部より下部に行くに從つて强粘結となる傾向がある。今永定炭層のものゝサンプル卅二について見ると粘結性のもの九、弱粘結性のもの十五、非粘結性のもの八となる。之によつて見ると從來の大同炭田についての說は完全に覆へされる譯である。而して右サンプルにつき發熱量を見ると、七千三百から七千六百カロリーで、撫順炭の約七千カロリーを凌駕することが明かとなり、別に石炭紀の口泉鎭層を見ると六千四百より七千となつてゐる。

B 液化適用性

（イ）直接液化の試驗の結果を見ると液化率六〇パーセント、揮發收率二〇パーセントの良好なる結果を得た。

（ロ）完全瓦斯液化試驗の結果、收量何れも約七〇パーセント。

（ハ）石油合成法（フィッシャー法）の結果ゲイーデイア、コッペルス、ウイアグの三方法の何れによつても良好なる適用性ある事が判明した。

當局の發表は以上の如くだが、さて問題はその輸送にある。大同炭三千萬トン開發十ヶ年計畫によれば

第一年	（昭和十三年四月より翌年三月まで）	一、〇〇〇千トン
第二年	〃	二、一五〇
第三年	〃	三、七〇〇
第四年	〃	七、〇〇〇
第五年	〃	一〇、〇〇〇
第十年	〃	三〇、〇〇〇

卽ち第五年目が完了する昭和十八年三月には一千萬トン、昭和二十三年には三千萬トンを開發する豫定になつてゐる。この開發計畫は實は輸送計畫そのものなのであつて、さしあたりは一千萬トン目標で輸送力强化を圖つてゐる。貨車增結、路線改良、局部的新線敷設など、この一千萬トンまでには相當の努力が必要のやうである。問題なのは三千萬トン計畫で、一千萬ト

ンから三千萬トンに增嵩するにはどうしても、大同から東へ渤海灣まで蜿蜒六百キロの長きに亙つて、新しい複線の送炭專用線を敷設せねばならぬ。いま机上案で、その渤海灣口を大清河にするか、塘沽にするか議論が練られてゐるが大體塘沽になるらしい。それと同時に鐵道建設に要するレール、機關車、貨車が大問題である。また大清河にせよ大沽にせよ、何れにしても港灣設備そのものが問題である。更にこれを內地に輸送する船舶五十萬トンを何處からひねり出すか、これは我が船舶界に新紀元を劃さねばならない程の問題である。

結局大同炭の三千萬トン計畫は、大同炭礦から內地船舶界まで、一貫して有機的に輸送力が擴充されなければならない。さうかといつてこの石炭の打出の小槌を振らない手はない。內地石炭需要の加速度的增加に對應するため、よろしく緊褌一番思ひ切つた措置に出なければならぬ。筑豐炭田で床下三尺まで無理して掘らないで、そのレールと輸送機關と炭坑夫を一括して大同炭田へ移駐すべきであるとの議も唱へられてゐる。何れにしても眞面目に考へねばならない問題である。

大同炭礦のほか蒙疆には察南、大青山の兩炭礦があつて事變前併せて十萬トン近くを出してゐた。察南炭田の埋藏量は四千八百萬トン、大青山炭田は四千六百萬トンと推定されてゐるが大青山炭田は治安の關係から未だ殆ど手がつけられてゐない。

四、龍烟鐵鑛

今を去る二十五年前、一九〇四年スエーデンの鑛山技師アンダーソンが北京の裏町を歩いてゐたとき、支那人が何か赤い粉末をこねて紅に使つてゐるのを見た。何氣なくその紅を手にとつてみると鑛粉である。よくよく調べてみると意外にもこれは赤鐵鑛の粉末だつた。

アンダーソンは興味にそゝられるまゝ、その赤鐵鑛粉末の運ばれて來た徑路を探つてみるとこれは蒙疆の宣化北方の小山から掘出されて來てゐることが判つた。これによりアンダーソンは赤鐵鑛々脈の存在を發見したが、これこそ今の龍烟鐵鑛そのもので、最初發見した鑛區は辛窰——三叉の鑛床だつた。

このアンダーソンは別に酬いられることもなく、老齡いまだに東洋各國を旅行して廻つてゐる。だが蓋し龍烟鐵鑛の大恩人といふべき人であらう。

大正八年支那の官商合辦で龍烟鐵鑛公司（資本金五百萬圓、內拂込百二十萬圓）が設立され、約一ヶ年手掘りで十萬トンを採掘したが歐洲大戰後の反動で採掘は中止された。當時日本に賣込みの話も進められたのだが、商談は不成立に終つた。この十萬トンの內四萬トン餘は中支の

大冶に送られ、殘る五萬トン餘は貯鑛のまゝ今回の支那事變に引繼がれた。今事變と共に昭和十二年十月二十日これを接收、蒙疆聯合委員會はこれを逆產處分に附して蒙疆政府の所有となし、蒙疆聯合委員會の管轄下に置かれた。

接收と同時に我が國の鐵道省から多數の技師及資材が送られ、右の五萬餘トンの貯鑛を運び出すため、京包線宣化驛から水磨貯鑛場まで急遽引込線を敷設した。これは我が國生產力補給に資するためで、その敷設の神速なる、正に鐵道建設史上空前のレコードだつた。

同鑛山は、龐家堡、三叉口・辛窰の兩鑛床が最も大きく、烟筒山鑛床これに次ぎ、涿鹿鑛山も相當大きいが貧鑛が多い。アンダーソン調査に據れば、埋藏量及品位は左の如く約一億トンの總埋藏量をもつてゐる。

	埋藏量	品位
龐家堡	四〇、〇〇〇千トン	六四%
三叉口・辛窰	三〇、〇〇〇	五九—六二%
烟筒山	一二、〇〇〇	五〇—五四%
麻峪	四、〇〇〇	六四%
涿鹿	一三、〇〇〇	五三%

鑛質は甚だ優良で赤鐵鑛は四〇—六〇パーセント、磁鐵鑛は六五パーセント、鎔解し易くコークスの使用量も少い。

鑛石は鰤狀及腎狀の構造を呈し、腎狀鑛石は世界で最初に發見されたゝめ特に有名である。極く最近關底に新に磁鐵鑛の大鑛脈が發見されたが、これは品位六五パーセントで、その埋藏量は實に一億四、五千萬トンに上ると推定されてゐる。

龍烟鐵鑛の開發は、蒙疆聯合委員會の蒙疆開發五ヶ年計畫の重要な部分を占め、大同炭の開發と關聯して計畫が進められてゐる。龍烟鐵鑛開發五ヶ年計畫は、昭和十三年四月より開始し、五ヶ年目に二百十萬トン採掘を目標とし、京包線改良、塘沽積出施設等とも密接な關聯を持つてゐる。同五ヶ年計畫に據れば五ヶ年目に

龐家堡	一、二〇〇 千トン
三叉口・辛窰	三〇〇
烟筒山	四〇〇
麻峪	——

右の採掘量を出す豫定で、その殆ど全部は對日輸出向に當てられることになつてゐる。

そしてこの龍烟鐵鑛經營組織の問題については、北支開發會社の下に一元經營する案と、これを北支會社から分離獨立させる案とが比較檢討されてゐたが、北支の開發のテンポでは間に合はぬといふので、昭和十四年五月龍烟鐵鑛を北支開發より分離し、獨立の蒙疆法人龍烟鐵鑛會社を設立することに決定した。新設される同會社は資本金一千萬圓で、蒙疆政府と北支開發會社が折半出資することになつた。これによつて龍烟鐵鑛の開發は急速度に進捗することとなるだらう。また、恐らく製鐵所の併置も近く實現するだらう。

なほ問題は塘沽の築港施設だが、これは大同炭の積出しのためにも大問題なので興亞院でその計畫を檢討してゐるが、大體四ヶ年計畫で七千五百萬圓の巨費を投じ、完成後の能力七百五十萬トン目標で大規模の築港が開始されることになるらしい。

五、ダブス・ノールの鹽

蒙古高原には捌け口の無い澤山の湖沼が散らばつてゐる。空氣が乾燥してゐるため、その蒸發度も高く鹽分の濃い湖沼が多い。この鹽湖による所謂蒙鹽の產出も蒙疆鑛產の一つとして數へねばならぬ。內蒙の鹽湖は

〔錫林郭勒盟〕

ダブスノール、ダライノール、ゴルバンノール、ダブスマタイノール、ダイハノール

〔オルドス地方〕

キルノール

ダバスン　その他

の多きに達してゐる。ダブス・ノールが最も代表的である。ダブスは蒙古語で鹽、ノールは湖の謂ひである。

內蒙の錫林郭勒盟を北へ、北へ、具子府から更に北へ外蒙との境近くまで行つた所に周圍一六キロのダブスノールが神祕の水を湛へてゐる。同鹽湖の一ヶ年總採鹽量は二千五百萬斤乃至三千萬斤と推定され、この他內蒙に於ける各鹽湖の採鹽高を合すれば、年產八千萬斤に達する。何分にもこの各鹽湖は、掘れど盡きぬ無限の寶庫でありながら、僻遠の地に散らばつてゐるため開發が遲れ、原始的な牛車が蒙疆一帶、滿洲國、北支に運ばれてゐる。その工業的利用

は恐らく近い將來に着目されて來るであらう。殊に屠畜、酪農と結びつければその工業的利用價値は以外に高いだらう。

六、その他の産業

農　業　は總て漢人の手で行はれ、南の長城から陰山々脈を北に越えて多倫―德化―百靈廟の一線が北方の限界になつてゐる。耕地面積は一四、二五三平方キロで、なほ相當可耕未墾地を殘してゐる。既耕地の大部分は乾田で、水田は主として宣化附近に多く、菜園及果樹園は鐵道沿線都邑附近に限られてゐる。

蒙疆の農業は一毛作で、主作物は

麥	一、三八一　千石
粟	一、四七三
高粱	八〇七
豆類	六八六
大麥	一六〇

小麥	四八五
馬鈴薯	一四、八八三

その他亞麻、大麻、甘草を產する。

甘草は藥の甘味料として最近著しく販路が擴大されてゐる。最近では更に藥用から工業用途にまで用ひられ、歐米の市場にまで運ばれてゐる。荳科の多年性草木で蒙古及西北支那地方に野生してゐる。あの地味の無い原野に數尺に達する宿根の甘草が生えてゐることは一つの奇蹟であらう。老いたるものは實に數十年生の株もある。土地の住民がこの甘草を掘り上げると、甘草買付の商人がこれを特約集荷してゐる。蒙古人は土地を掘らないため何れも漢人の手に委されてゐる。この甘草採取は益々大規模の企業になるであらう。

蒙疆の農業を論ずる際、河套地方の存在を忘れることは出來ない。オルドス平原の伊克昭盟（イクチヤオ）を前套といひ、五原、臨河、安北三縣を後套といひ、臨河以西寧夏にかけてを西套といふが、このうち最も早くから開墾されたのは西套である。そののち後套の墾殖が試みられ、閻錫山は昭和七年以來屯墾隊を派遣して河套開發に見るべきものがあつた。五原、臨河は特に豐饒の地だがこれもその屯墾隊で開發されたものだ。同地方の治安が確立されゝば、將來恐らく經濟農業移民が試みられるであらう。五原、臨河は無數のクリークが網を張つて皇軍の治安作戰を妨

げてゐるが、このクリークは灌漑の目的と共に黄河の水量調節にも役立つてゐる。萬里の長城と共に、支那人の話は規模が大きい。

阿　片　は主として蒙古聯盟の地域で採取され、その栽培面積は二十五萬畝に及んでゐる。その他羊毛、甘草と同じく西北の青海、寧夏、甘肅の方から輸入され、その取引數量は年約一千萬兩、年に五百萬圓の財政收入を齎らしてゐる。

天然曹達　も蒙鹽と並ぶもので、埋藏量は九千キロトンに上る。張家口で「紫鹹」と稱するのは精製された天然曹達である。オルドス平原の察漠湖、巴彥湖は特に著名で固定の曹達結晶の厚さは一尺を超えてゐる。然し同地方は未だ治安が確立されてゐない。

石　綿　は我が國軍需生產力に最も需要の多い貴重な資源だが、これが陰山々脈の西方に多量產出される。埋藏量六十八萬トンと推定されるが、その主な礦區は白彥溝（固陽縣）、廟兒溝及石花溝（何れも武川縣）烏拉山（包頭西北）等で、この石綿鑛區の發見は我が國軍需工業に大きな光明を點じてゐる。從來我が國石綿の產出は殆ど絕無で、總て輸入に俟つてゐたのだが「蒙疆で石綿が採れるならどんなにでもして掘り出せ」といふので、石綿採掘には非常な努力が加へられてゐる。何れも僻遠の地のことゝて、治安が確立されるに從つて、その採出も可速度的に增加するだらう。

金融の話

一、事變前の金融事情

事變前の近代的金融機關は、察南地域には張家口に察哈爾商業錢局あり、厚和に綏遠平市官錢局、豐業銀行があつて、これが舊綏遠の中央銀行的役割を持つて發券業務を擔當してゐた。このほか大同には山西省太原に本店を有つ山西省銀行があつて山西票が流通し、その他南京政府系の中央、中國、交通の三銀行券をはじめ北京、天津、上海の諸銀行券が入り亂れて流通してゐた。

そのほか舊式金融機關としては票號（資本家は多く山西人で、各地方間の爲替取扱を主業とする）、錢號（各取引市場で貨幣の兩替を主業とする）、その他何れも所謂高利貸的搾取の機關が普及してゐた。

この金融業務は何れも漢人の手によつて行はれ、陰山々脈北方の蒙古人社會では金融は無い。蒙古人に金融はないが貨幣の存在を否定することは出來ない。古くより蒙古人は物々交換を云々されて、貨幣の存在を否定したやうな言説が行はれてゐる。通貨の流通は非常にすくない、然し通貨が無いからといつて蒙古に貨幣の存在を否定することは出來ない。内蒙奥地に入ると最近までは硬貨でなければ通用せず、しかも貴つた銀貨を耳飾りにするなどの面白をかしい傳説が傳へられてゐるが、最近では紙幣も十分通用しはじめてゐる。蒙古人が漢人買賣家との間に、畜産類を賣り、生活必需品を購ふのも、その間に通貨の授受は無いにしても、その計量はちやんと貨幣を基礎に計算されてゐる。

だから、こゝに蒙疆の金融事情を云々するのは、總て漢人社會の金融事情なのである。

二、事變後の金融統制

昭和十二年八月關東軍が張家口に入城すると共に、關東軍司令官の名に於てモラトリアムを施行し「金融は察南銀行をつくつて整理する、負債ある者は直ちに申告すべし、これに違反したる者は嚴重處斷する」との布告及いろ〳〵の關係法令を發した。同時に金融接收に移つたの

だが、當時察哈爾商業錢局は一切の帳簿、現金を持つて逃亡した後で接收の手懸りにとぼしく、漸く北京支店に手を廻してこれを押へ、同支店の帳簿によつて預先の回收を急いだ。これを傳へ聞いて京津方面の舊法幣との兌換は急增し、回收を一部困難ならしめたが、未拂出預金百萬圓の回收に成功し、これを基礎に滿洲中央銀行から尚ほ百萬圓の融資を受け、同九月二十七日察南銀行（資本金百萬圓）を開設した。

察南銀行の發行する紙幣を以て法幣となし、法幣は日滿圓にリンクせしめた。十月一日開業と同時に、同月二十日までの二十日間に舊紙幣の回收を行ふことゝなり、百方手分けして山間僻地にまで回收の工作を進めた。これによつて張家口で百二十萬圓を回收したが、其他の山間僻地では舊幣に特別の捺印を加へて、後日これを引き換へることにした。その捺印した舊幣百三十萬圓を以て回收を打切つて了つた。回收期間二十日間といへば餘りに短い期間であつたが、これは劉如明が察哈爾商業錢局の未發行紙幣を全部持つて逃げたため、それが後になつて流入して紙幣價値を紊すのを防ぐためであつた。これで察南一帶の舊幣回收は成功裡に終つた。

次で關東軍の京包線西進に伴ひ、晉北自治政府、蒙古聯盟自治政府が成立すると共に、それぞれ大同と厚和に察南銀行支店を設けて金融統制を圖つた。

厚和では綏遠平市官錢局と豐業銀行を接收したが、この綏遠平市官錢局は傳作義支配の地方

的中央銀行で頗る堅實を誇つてゐた。その傅作義が事變によつて退却するに際し、「自分は戰に負けて逃げるが、現金や紙幣を持つた一般人民は救はねばならぬ」といふので、副支配人以下の行員全部を局内に殘し、一切の帳簿もその儘にして行つた。これは敵國人ながら傅作義の善政として未だに語り傳へられてゐる。だから厚和では舊幣を回收すること無く、布告により察南銀行券と等價で流通せしめ、漸次蒙疆銀行券で回收して行つた。回收した平市官銀號券は四百六十七萬圓、豐業銀行券は三十六萬圓に達した。

三、蒙疆銀行設立

昭和十二年十一月二十二日蒙疆聯合委員會が誕生し、金融行政は同聯合委員會の手で行ふことになつたので、金融は三自治政府にばら〳〵に委さないで一本に統一することとなり、翌二十三日察南銀行を改組擴大して、蒙疆銀行條例、蒙疆銀行組織辨法の公布によつて、蒙疆銀行が創立された。

蒙疆銀行は察南、晉北、蒙古聯盟の三自治政府がそれ〴〵四百萬圓宛を出資し、千二百萬圓の公稱資本とし、内拂込資本は三百萬圓であつた。

同銀行は昭和十二年十二月一日營業を開始し、蒙疆地區一帶の通貨發行券を收め、こゝに蒙疆の通貨は文字通りに統一された。

同銀行は法令の定めるところにより

一、地域内に於ける金融の調整
二、通貨の製造及發行
三、國庫金の取扱
四、内外爲替業務
五、一般銀行業務

の取扱を使命としてゐる。

總裁は包悅鄉氏、副總裁は寺崎英雄氏で、行員は約四百名、厚和、大同、包頭、北京その他合計十二ヶ所に支店を置いてゐる。

蒙疆銀行の紙幣發行高は、昭和十二年九月接收當時九百二十一萬圓だつたが、昭和十四年四月末日現在三千八百萬圓に達し、各種產業開發の進捗に基く經濟取引の殷盛を見せてゐる。發行準備は七〇パーセントが準備金に當てられ、日本銀行券、朝鮮銀行券その他の圓預金及銀塊が準備になつてゐる。蒙疆で皇軍の使用する紙幣は軍票によらず全部蒙疆銀行券を使用してゐ

る。蒙疆銀行券の外、別に滿洲國法幣たる滿洲中央銀行券（國幣）と、北支聯合準備銀行券が流通してゐたが、昭和十四年五月十五日蒙疆聯合委員會は布告を發し聯銀券の流通を嚴禁した。昭和十二年緊急通貨防衛令によつて蒙疆銀行券以外は日滿通貨だけが流通を認められ、聯銀券は事實問題として久しく流通を見てゐたのだが、これが通貨の一元的流通を阻害するので再取締強化となつたものである。

四、蒙銀券の對外價値

日本の圓は嚴重な爲替管理のお蔭で一志二片の對外價値を持つてゐるが、大陸に進出した圓はその管理の外にある。そして自由に取引されるために八片の相場が現はれてゐる。蒙銀券も圓にはリンクしてゐるが同樣の關係で八片相場を出した。初め蒙銀券は外貨との聯繫がないため、蒙銀券で海外拂をするためには、一旦聯銀券に乘り換へ、更に天津で舊法幣を買はねばならぬ。しかも蒙銀券と舊法幣との交換價値は實際二圓の逆プレミアムが付いてゐたので、實際は蒙銀券は八片まで下落したことになつた。このため蒙疆からの物資の海外輸出は全部八片に

切仕られ、しかも八片で仕切られた外貨でさへも全部外國銀行の手中に歸し、舊法幣のバックとなり、代り金は聯銀券で支拂はれる狀態にあつた。

このため蒙疆聯合委員會は蒙疆重要物資の輸出統制を斷行し、從來無統制だつた物資の買付及搬出を許可制とし、輸出代り金たる外貨を蒙疆銀行に賣却せしめ、且つ蒙疆をして外貨を充實して海外との爲替取引を行はしめ、併せて資本逃避の防止を圖ることになつた。このため昭和十三年十二月通貨取締令を發し、所定の重要物資を輸出するものは爲替を取組ましめ、その爲替は必ず蒙疆銀行に賣却せしめることゝし、千圓以上の對外送金は許可制下に置いた。また獸毛類輸出取締令及毛皮類搬出取締令の改正を公布し、前述の如く獸毛及毛皮輸出に際して取得した爲替は、これを蒙疆銀行に强制的に賣却せしめることゝした。これによつて蒙疆は爲替管理と資本の逃避防止をなし、これで獲得した資本で、開發資材を購入することが出來るやうになつた。對日關係では例へば興中公司の手で、鐵を八幡製鐵所に賣つた金は、日本か北支の何處かで使はれて、蒙疆で取つたものが蒙疆に還らなかつたが、今後は圓爲替も蒙疆銀行に賣却せしめることによつて、蒙疆で輸出した富はそのまゝ蒙疆銀行に集中して再び蒙疆開發に還元させようといふ仕組である。先に述べた對蒙交易にしても、買賣家の不當な利潤は不當な利潤にしても、從來はそれが北京へ流出してゐたものが、今度は尠くとも蒙疆の地域に蓄積され

回轉することになつた。そして蒙疆からの輸出は、從來必ず北支で法幣を買つて八片に仕切られてゐたのが、爾後は法幣を媒介とせず直接一志二片で外國爲替を買ふことゝなり、蒙疆銀行としては四片の割損をしのぶわけであるが、これは見返り輸入による利益で相殺し、その間極力外貨の蓄積に努めてゐる。

交通の話

一、京包線

蒙疆政權下に於ける既設鐵道は、同蒲線の一部が頭を出してゐる外は、京包線一本である。京包線は北京の南一五キロ、北寧線の豐臺驛を基點とし、八達嶺の萬里の長城を越えて、張家口、大同、厚和、包頭に至る延長八一六・二三キロの鐵路である。これは支那の鐵道が列强の利權爭奪の具に供されてゐた中に、唯一の支那人の手によつて建設された愛國鐵道として有名

であつた。一八九九年ロシアがイルクツク——庫倫——張家口——北京の路線獲得を迫つたのに對し、英國が抗議して流產せしめ、英國の勸めによつて支那自身で京包線を建設すること、建設後も外債の擔保としないことを約せしめて起工された。一九〇五年（明治三十八年）清國政府は先づ豐臺—張家口間の第一期計畫に着手、一九〇九年完成した。前後十二ヶ年、途中革命、資金難等のため幾度か工事は停頓したが、一九二一年（大正十年）五月厚和まで完成、引續き一九二三年（大正十二年）包頭までの全線が竣工した。建設費實に五千九百萬元（一九三二年現在、改良費を含む）である。

京包線は支那西北邊疆の開發と共に、軍事的政治的に重要な意義を持つてゐる。西北羊毛が包頭に集り、京津地方の物資が包頭から西北に撒布される。そのため京包線は唯一のルートになつてゐる。西北商業路線として輸出入物資の輸送は今後益々增加するだらう。殊に蒙疆が支那西北邊疆と京津地方の通過貿易を特徵とする以上、京包線は今後必然的に西へ、西へと延びる傾向を持つ。輸送貨物としては石炭と穀物が二大宗をなし、全輸送數量の八割に當つてゐる。畜產品、綿糸布、諸雜貨がこれに次いでゐる。

將來の參考のため本鐵道の延長線として支那側が計畫した豫定線を左に揭げる。

一、包寧鐵道

包頭——寧夏　一、二〇〇支里

一、平滂鐵道

平地泉——九臺——土牧臺——滂江　二四二キロ

一、蒙古縱斷鐵道

厚和——庫倫——外蒙買賣城　二〇、〇〇〇キロ

一、張多鐵道

張家口——萬全——張北——多倫　四四〇支里

二、自動車交通の統制

蒙疆に於ける自動車交通は、支那軍が退却に際し自動車を奪取して行つた爲、事變直後は一切のルートが杜絶してゐたが、蒙疆聯合委員會は內蒙自動車營業を統制發展せしめるため張多汽車公司を改組し、昭和十二年末蒙疆汽車公司を設立した。汽車とは支那で自動車のことをいひ、我々の汽車は火車といつてゐる。聯合委員會は蒙疆汽車公司に對し主要三十路線、延長六千キロの路線開拓を命じ、これに附帶して優良車種を指定し、張家口、包頭、厚和に修理施設

を命じ、またガソリンの强制保有を行はしめ、蒙疆に於ける獨占營業を保證した。

蒙疆地域は兵站線としての京包線と共に、この自動車交通は作戰的にも政治的にも、產業開發の上にも特別の重要性を持つてゐる。殊に外蒙、支那西北邊疆を考慮に入れる時、廣漠たる沙漠乃至草原地帶はどうしても自動車交通に重點を置かねばならぬ。事變前には庫倫、張家口間の自動車交易は殷賑を極めた。綏遠から新疆省を結ぶ新綏長途汽車公司は、百萬元の資本を擁して西北交通に當つてゐた。これはいま西南に移つて蘭州赤色ルートを守つてゐる。蒙疆汽車公司の使命益々大きい。

外蒙古の知識

一、防共と蒙古

蒙疆のもつ使命のうち、北方の外蒙古によるコミンテルンの防遏が重大なことは、前にも話

した。實にこの赤の遮斷こそは蒙疆の使命の大半と云つていい。現にこの支那事變前までは外蒙の庫倫から蒙疆の張家口に通ずる所謂張庫街道は、ソヴエトが北京に通ずる赤色ルートとして殷賑を極めてゐた。今事變で蒙疆政權が確立されたことは、この北からの赤の進出を遮斷したことを意味し、今後の防衛に關して金城鐵壁の防塞を築いたものだ。しかも蒙疆政權によつて復興の意氣に燃ゆる內蒙古人は、同じ兄弟、同じ民族の緣から、外蒙古に呻吟する蒙古人兄弟を救はうとする氣持が强い。蒙古民族の胸に流れる民族的團結の熱情は熾烈である。

かうして蒙疆からする外蒙古問題は、防共の大目的に蒙古人の民族問題が溶け込んでゐる。その意味で蒙疆に於ける外蒙古問題は非常に眞劍なものがある。

二、ソ聯の對蒙政策

ソ聯以前、帝政ロシア時代に外蒙がロシアの對象物に浮び上つたのは餘程古い話で、一七二七年布拉(ブラ)條約に始まる。これは蒙古に於ける露支國境を協定したもので、その時早くロシアは外蒙古の北方境界を自國に有利に設定し、外蒙、それから今云つた張庫街道一帶を通商指定地と定め、通商はすべて無稅とした。今より二百年前既にロシアは支那に於て、西歐諸國を出し拔

いて東方進出の野望を果してゐたのだ。

爾來ロシアは蒙古人の唯一の絕對宗教たる喇嘛教に對しては、これを十分尊重し、蒙古王公の歡心を求めて巧な懷柔政策を使つた。だから外蒙古王公の對露關係は親露一色となり、ロシアはこれが懷柔に全力を注ぎ、何とかして滿洲朝廷から自分の方に引き離さうと試みてゐた。これが功を奏し一九一一年外蒙古は帝政ロシアの援助によつて獨立し、事實上外蒙は帝政ロシアの保護國となつた。

次いで一九一七年ロシアに革命が勃發するや、支那は、從來の帝政ロシアとの外蒙協定を一切取消し、一時外蒙の實權は支那政府に移つたが、僅か二年にして再びロシア白軍の手に奪取された。

親露派は革命後のソ聯邦の援助で、外蒙の獨立を企てゝゐたが遂にこれに成功し、ソ聯は白軍を討伐して庫倫を占據し、同時に蒙古人民臨時政府が組織された。これは一九二一年の事で、こゝに革命後の赤のソ聯は外蒙に今日の地盤を築いたのである。

一九二四年同臨時政府は改組され、外蒙古人民共和國が生れた。その後ソ支國交恢復により「ソ聯は支那の外蒙古に對する主權を認める」が「外蒙古は自治により、その內政は支那の干渉を受けない」ことになつた。

751
251

外蒙古の政治は

一、國體は共和制

二、土地國有

三、外國貿易及び經濟の國營

四、王公貴族の特權廢止

五、男女、民族、宗教の平等

を採用し完全にソヴェト化してゐる。

外蒙の軍隊もソ聯の絶對支配下にある。外蒙軍に顧問指導者を付するは勿論、ソヴェト人自身も軍に參加し、別にまた赤軍を配置して、砲兵、機械化兵團、飛行隊等、近代裝備を益々強化してゐる。

蒙疆との國境は極めて安泰だが滿洲蒙古の國境は、絶えず外蒙軍の不當越境によつて紛爭が絶えない。大抵月に一度か二度は、內地の新聞にも見えない事はないと云つて宜い。

支那事變と共に外蒙軍がどう出るか、これは全世界から注目されてゐたが、結局ソ聯は反革命陰謀を繞る肅正工作の方が忙しかつたらしい。

ソ聯內部の淸掃工作は外蒙をも荒し、その犧牲は數知れない。

三、呻吟する外蒙古人

外蒙古人は今ソ聯の支配下に呻吟してゐる。蒙古人の絶對宗教たる喇嘛教は彈壓されてゐる。最近彈壓の行過ぎは多少修正されたらしいが、これによる蒙古人の反感は根强い。王公による傳統的な封建制度は破壞された。

これに對して滿洲國獨立による滿洲蒙古の復興、引續き支那事變による蒙疆政權の確立、これに伴ふ蒙古民族の復興——これ等の嚴肅なる事實は、赤に呻吟する外蒙古人に對し、今や大きな魅惑となり、無限の憧憬となつてゐる。

このため外蒙古から內蒙古へ蒙古人が屢々逃げて來てゐる。現にブリヤート蒙古の大集團が內蒙古の北方の某地點に逃避して來て、內蒙古人の中に混はつて幸福な新生活を樂しんでゐる。

こゝで最近外蒙から滿洲國領へ脫出して來た、外蒙軍騎兵大尉ビンバーの脫走談を讀み返さう。昭和十四年四月八日朝日新京特電は、ビンバー大尉の談話を通じて、外蒙共和國の悲慘な內情を暴露し、外蒙人民の反旗の實情を傳へた。

ビンバー大尉の暴露談話（四月九日附東京朝日新聞による）

751
251

ソ聯の魔手は外蒙の平和と秩序を破壞し、我等外蒙の獨立は完全に失はれた。デミツト陸軍大臣以下多數が虐殺され、少壯幹部にも壓迫は日增に加へられ、何時殺されるかも知れないので脫走して來た。

昨年八月十八日夜脫走によい機會が來た。私は當直將校であつた。豫て相談し合つてゐた同志ドイソンドル中尉に「俺はいよ〳〵東に行く」と告げて別れると、彼は固く手を握り成功を祈ると元氣づけてくれた。夜の迫るのを待ち二頭の馬をもつて滿洲國の方に向つた。眞夜中十九日の午前一時頃、前線のゲ・ペ・ウに發見され馬は二頭とも射たれた。僕もゲ・ペ・ウの馬二頭を斃し、暫く交戰を續けたのち草原を東へ〳〵と歩き、午前四時頃國境に辿り着き、その日は一日中草原を歩き續け、翌二十日の午後三時頃ハンベンス（興安北省西新巴旗內）に到着した。

昔はソ聯兵を非常に尊敬してゐたが、今はソ聯兵の橫暴壓迫を憤慨し、非常に反感を持つてゐる。第二軍團長のダンバー將軍が滿洲里會議から歸つて我々同志に向つて、外蒙古はソ聯の手より遁れ、獨立を實現すべきであると決意を語つたが、これが暴露してダンバー將軍は死刑にされた。ダンバー將軍は死に際して「誰か赤軍の軍機を持つて滿洲里に行き、ソ聯の內情を暴露してソ聯を顚覆する機會を作り、外蒙の獨立を圖れ」と遺言した。

肅淸は一昨年と昨年の兩年にかけて最も苛酷を極め、ゲンドル首相、デミツト陸軍大臣、マルヂ參謀總長をはじめ、幹部將校、官吏約五百名が庫倫に於て銃殺され、人民でさへ醫師、僧侶の牢獄に繫がれてゐるものは數知れない。それにも拘らず人民兵士の反ソ態度は益々濃厚となり、將校はじめ兵隊は夜間ソ聯のピストルを折り、大砲に砂を入れ、ガソリンに水を加へる等の手段によつて反ソ氣分を煽つてゐる。

支那事變が始まつてからゲ・ペ・ウは盛んに日本の敗退を宣傳してゐるが、人民兵士の中で約二〇パーセントはこれを信じ、二〇パーセントは日本が勝つたともいひ、支那が勝つてゐるともいつてゐる。だが六〇パーセントははつきりと日本の勝利を信じてゐる。そして外蒙古獨立のために起つのは今だと四箇師團が完全に暴動を起した事實がある。

ソ聯の喇嘛教に對する壓迫は、一昨年から昨年にかけて最も酷かつた。庫倫を初め、各地の喇嘛寺は悉く破壞されてしまつた。

軍の內容に就いてはこゝで詳細に申上げることを控へるが、ソ聯の將校及び下士官は一萬五千以上は確にゐると思ふ。

滿洲國領內に脫走してから約半年になる。私はこの間某所に於て心安らかに日本及び滿洲研究を續けてゐる中に、ソ聯との關係を斷ち、外蒙古の獨立を計るべき信念を愈々强くした。

751
251

人種的にも、宗教的にも蒙古人は碧い眼と赤い髪のロシア人の支配下にあることを好むものでない。お互に黑い眼、黑い髪、黄色い皮膚の內蒙、滿洲、日本と相提携するのが當然である。外蒙人民の大多數は、あの成吉思汗の昔を偲び、數百年來續けて來た日本、滿洲との善隣關係の復活を希望し、反ソ獨立の運動を續けてゐる。

四、張庫赤色ルート

張家口から自動車を走らせて北へ一時間餘、張北に着く。こゝは陰山々脈を北に越えた棚のやうな高原の入口、こゝから東へ、北へ、西へ、蒙古大草原が涯しもなく擴がつてゐる。

この張北から西北へ文字通りに一直線、德化を越え西蘇尼特（ソニト）へ、遠く外蒙國境近くの二連（アルレン）に向つて一條の電信線が走つてゐる。自動車を走らせても走らせても、電信線はたゞ一直線にその先へ走つてゐる。これは嘗て外蒙と內蒙とを繼いだ庫倫——張家口間卽ち張庫電信線だ。この電信線をつたつて往年の張庫赤色ルートは殷賑を極めたものだつた。

庫倫——張家口間は一、二〇〇キロ、外蒙からの交通路は庫倫を中心として南は沙漠を越えて張家口、平地泉、歸化城（厚和）、包頭、五原に通じてゐた。このうち張庫街道は最も交易が

盛んで、一九一七年庫倫總務商會の手で張庫間自動車運轉が開始されたのを皮切りに、漸次支那商人、英米人等が之に倣つた。翌一九一八年綠樹錚の西北部が外蒙に入るや、交通部の直營で未曾有の自動車交易が興つた。

その後外蒙がソヴエト化するや、外蒙國境は封鎖された。これは支那商人勢力の侵入を防ぎ、外蒙人にソヴエト商品を强制使用させる意圖に出たものだが、馮玉祥とソヴエトの密約で一時復活し、又馮玉祥沒落で一時杜絕したが、間もなく共和公司（コンス）が德蒙洋行に改組され、更に德華洋行と改名してこれが張家口——外蒙間の貿易を續けた。

德華洋行は、表面ドイツ商と稱してゐたが、實はソヴエト人の操る會社で、張家口にトラック、乘用自動車、牛車、駱駝等を備へて外蒙古の對支貿易を獨占し、張庫間の交通權を一手に掌握してゐた。當時未だ日本商人の片影だになく、張庫街道に赤白黑の三色旗を飜して一九三四年（昭和九年）頃には二百萬元に達する貨物を取扱つた。所がこれは單なる商賣でなく、北支那赤化の謀略機關として僞造紙幣の密輸で北支赤化に狂奔してゐた事實が暴露し、一九三六年（昭和十一年）支那官憲のため閉鎖を命ぜられた。翌年支那事變勃發と同時に、この張庫赤色ルートは蒙疆政權によつて完全に遮斷されたが、張家口——二連間の一條の電信線は當初の赤の貿易、赤の觸手の跡を偲ばせて感慨深いものがある。

751
251

内蒙風物とこころどころ

一、内蒙入りの用意

昔、内蒙といへば北京から八達嶺を越えて張家口に來たら、もう「内蒙探檢」の第一頁とされてゐた。だが今日では蒙古人は漢人のため北に追はれて、陰山々脈の遙か北方、多倫――德化を結ぶ線の以北でなければ、蒙古人社會を見ることは出來ない。張家口から自動車で朝から走りつゞけて、約一日の行程である。

蒙疆に來て内蒙の風物に接しようとすれば、張家口からこの德化以北に入るか、包頭から北へ百靈廟に行くのが順路である。

張家口の北方、自動車で一時間餘の張北に行けば、察哈爾盟公署の裏庭に蒙古人の住居の包（パオ）が見本として置いてある。又厚和の軍機關の裏庭にも同樣包が一つある。この包を見て我慢

するなら簡單だ。忙しい旅行者なら、張家口から汽車公司のバスに乘つて張北の包を見學し、張北から以北に擴がる蒙古大平原の威容に接するがいゝ。だがこの包は蒙古人の住んでゐない見本の包であり、そこに擴がる大平原は見渡す限り漢人の農耕地帶で所謂草原ではない。包を見て蒙古人の生活を朧げながら想像し、農耕の平原を見てこれが鍬を加へられず痩せた草が見渡す限り生えてゐると想像し、そこに疎らに馬か羊の放牧が見えると想像して、そして内蒙の風物を偲ぶのも一興であらう。

だが、實際に内蒙社會を見るにはどうしても德化――多倫線以北に入らねばならぬ。この狹い意味の内蒙入りをするに當つて、注意しなければならないのは、張北以北に足を踏み入れる場合、張家口の軍機關の許可を求めることである。なぜかならば、内蒙一帶は特殊防共地域の前線であり、他方純眞な蒙古人の指導を不心得者の手で亂すことは、絶對に避けねばならぬからだ。

奥地入りの交通機關は自動車である。張家口から張北へ、張北から多倫へ、張北から德化へ、それ〴〵汽車公司のバスが定期的に走つてゐる。バスといつても貨物トラックで、乘客は助手臺又は荷物の空隙に蹲踞して運んで貰ふ。

德化を越えて、西蘇尼特、東蘇尼特、貝子府、烏珠穆沁方面卽ち錫林郭勒盟の奥に入るのに

751
251

は、何日か待つて適宜の便に頼んで便乘させて貰はねばならぬ。その代り奥へ入つたが最後、出て來るのには再び好便を捕へるまで、ゆつくり待つてゐねばならぬ。だから個人的に内蒙奥地に入ることは、實際問題としては殆ど難事と見ねばならぬ。

さうかといつて、張家口から自動車を一臺借りて入蒙することも非常な危險である。大草原の眞中で不時故障を起したら絶體絶命である。どうしても入蒙するなら莫大な費用さへ構はなければ、數臺の自動車編隊の用意を整へて行くのを勸める。

夏は晝と夜の溫度の激變に備へて、服裝を用意せねばならぬ。又毒虫の藥は是非ポケットに用意せねばならぬ。

冬は嚴寒零下三〇—四〇度に備へて、張家口で頭の先から爪先まで毛皮ぐるみ、それにフェルトの防寒長靴を用意せねばならぬ。北京あたりで用意したのでは不完全だ。それに毛皮を十數枚綴り合せて狀袋型にした寢具（シュラーフ・ザック）も整へねばならぬ。

それから奥地の人々が折角大切に蓄へてゐる食糧を、心なく食ひ潰してはならぬ。そのため自分の食糧は十分たつぷり携行せねばならぬ。そのほかに奥地の人々の淋しい生活を慰めるべく、何かと心盡しを携へることも嬉しい。

そして單なる觀光氣分は絶對にこれを排し、奥地の人々の生活に腹を合せた氣持で行かねば

ならぬ。内蒙奥地の人々の生活は嚴肅である。

二、德化の風景

張家口を出て德化までは同じく内蒙古といひ乍ら、漢人地帶なので物資は豐富で、寢泊りに不自由は無い。一日を費して德化へ。

德化と多倫（ドロン）を結ぶ一線は北緯四十一度五十分、北へ〳〵蒙古人の包（パオ）を追拂つて漢人が農耕地を開拓して來た執拗な進出力は唯たゞ驚く外はない。この德化こそは赤露と支那と内蒙が三つ巴になつて取組んだ歴史的な要衝、嘗ては外蒙貿易のため自動車、駱駝隊商が絡驛として通過し、ソヴェト資本の德華洋行が事變前まで堂々交易を續けてゐた。昭和九年南京政府は德化に設治局を設けたが、同地方の植民は大した發展は見ず、人口は事變前最盛期に四千五百名に達したが、今日は事變のためずつと減つてゐる。日本人も德王軍政府樹立の頃は百八十名に達したこともあつたが、現在は殆ど數へるに足らない。だが復興の意氣だけは熾んである。昭和十年南京政府は縣政を布いて化德と稱したが、德王軍政府によつて德化と改稱され、昭和十一年軍政府がこゝに移轉した。昭和十二年軍政府の一時後退に際し、德王は德化郊外で愛乘の飛行

751
251

機を燒棄てゝ去つたが、その殘骸が今でも殘つてゐる。次で同年九月再びこれを接收し、翌年一月一日察哈爾盟の下に德化縣公署が開設され今日に至つてゐる。

三、包（パオ）

德化を出發して西蘇尼特へ向ふ、これからいよ〳〵蒙古人の生活圏に入る。知らない間に農耕地が絶える。トラックの上で毬のやうに彈んでゐると、見える！　包が見える。德化から三〇〇キロの地點に右側に初めて蒙古人の包が見える。包は十個、牛糞の堆積が點在してゐる。

包は蒙古人唯一の家屋でフエルト張りの饅頭型組立式家屋だ、天窓が拔いてあり中央で乾獸糞を焚いてゐる。包の中の地面にフエルトを一枚敷いてその上に起居してゐる、包の中で牛乳を入れた磚茶を愛飲してゐる。これは蒙古人にヴィタミンを供給する貴重な飲料である。また牛乳或は馬乳で作つた奶菓子（ナイコーズ）を食べてゐる。東京、大阪にもないハイカラな乳酸の菓子である。家族の人々の瞳は純眞且つ素朴だが顏も手足も着物も垢で黑光りしてゐる。水は信仰的なタブー（禁忌）とかで風呂にも入らず手も洗はないからだ。

蒙古包は移動式の外に固定式のものもある。これは王府、喇嘛廟或は漢人化した蒙古人に見

られる。普通は總て移動式である。

蒙古包の構造は、柳條を網狀に編み、フエルトの側壁を四枚乃至十二、三枚繋いで圓形に圍み、柳條を傘骨形に編んだものを屋根にしてその上に同じくフエルトを張り、丁度饅頭形をしてゐる。中には柱はない。周圍のフエルトの壁は繩を廻して縛り、屋根の頂上は大きく天窓が開いてゐる。これは通風、採光、煙出しのためである。入口は幅三、四尺に切つてフエルトの幕を垂らし、或は觀音開の木戸が打つてある。

フエルトは羊毛又は駱駝毛を剪つてこれを地上に擴げ、適當の厚さに積んで上から水を注ぎ、その上を石を轉がして壓力を加へて拵へる。

包の中の正面は主人の座で、ハイカラな包では寢臺が置いてある。その向つて左には佛壇、衣櫃、向つて右方には食器棚の類が置いてある。

乾獸糞（アルガリ）は羊糞が一番上等ださうだが、大部分は牛糞である。蒙古草原を走つてゐると、草原の中を背に籠を擔いで、牛糞を拾つて歩く男女の風景が見える。牛糞は雨に曝され、陽に乾かされてから〳〵になつてゐる。それを大切に包の裏に積み上げて保存してゐる。牛糞こそは蒙古人唯一の燃料で、時にはこれが租稅に當てられることもある。慣れない我々が入蒙第一日に膽を潰すのはこの牛糞生活だが、火氣は至つて強く、多少酸つぱい匂がするが、

751
251

二、三日で慣れて了ふ。完全に風化してゐるからちつとも不潔ではない。

固定式包は、例へば王公の場合など、包の地面を掘つて支那式の炕(カン)を造り、煖房してゐるのもある。

包の色は白い。王公の包は屋根の上に朱の模様が縫ひ付けてある。色彩に乏しい草原地帶では、この白銀の單彩こそ却て審美的といつていゝ。

包の群がいくつも見えては消える快走約卅分、突如として右手の丘に八〇メートル四角の土塀を築いた宏荘な支那式家屋が見える。これは察哈爾盟商都牧場旗の第十佐領の家である。佐領は旗長の隷下に屬し、内地の郡長といつた役だ。家屋の中は炕を焚きストーヴを備へ、拳銃五六挺が壁にかゝつてゐる。屋敷の四隅に銃眼をもつた望樓が聳えてゐる。家屋の前に包が五つばかり、五十路を越えた佐領を中心に兄弟孫子の大家族が住んでゐる。こゝはまだ察哈爾盟内の西北端で漢人化した蒙古人である。漢蒙の接壤風景の好見本である。

四、草原の魅力

再び西へ！　暫らく走りつゞけると、丘の草原一面に黄白色の粗悪な瑪瑙石が濱の眞砂のやうに散らばつてゐる、拳大の純白の大理石片もころがつてゐる。この附近に自動車を停めると、タイヤの下、自分の足の下に年若い粗悪な瑪瑙石が轉がつてゐる。或は大理石といひ、この邊りは確に地質學的に興味ある地帶らしい。草原の中に不思議な景物である。德化から〇〇キロ、前後六時間餘で西蘇尼特(ソニト)に到着出來る。德王府のある所だが、德王は日常厚和の政府にゐてここは留守だ。

王府と廟を瞥見して西蘇尼特旗の公署を訪ねるがいゝ。公署とはいひ條、包が數個並んでゐるだけだ、その包が役所なのだ。これなども、内地の人々を驚かすに充分だらう。中に入つて見ると役人が牛糞をたいて執務してゐる。この附近には善隣協會もある。熱心な蒙古研究者が蒙古人になり切つて生活してゐる。

この西蘇尼特は錫林郭勒盟の西南端である。錫盟は内蒙古のうちでも最も傳統的な風物を殘した地帶である。こゝから東北に廣く錫盟が擴がつてゐる。だからこの西蘇尼特は新人・德王の王府のある處だけに、この一帶は錫盟の中では比較的近代化した所である。ほんたうの錫盟の傳統はこゝから更に東北に、東蘇尼特から貝子府に行かねばならぬ。でも德化から一歩奥に入つて先づ内蒙古らしい風景は、この西蘇尼特で充分味はふことが出來る。

西蘇尼特から東北へ、東蘇尼特へ行くには、たつぷり一日の行程であるから、西蘇尼特は餘

751
251

程朝早く出發せねばならぬ。西蘇尼特の夜がしら〴〵と明け初める。ハンドルを眞北に向けて丘を越える、大草原が北に展けてゐる。曉闇を衝いて走る、いつまで走つても大草原だ。見る見るうちに太陽が大草原の東の涯に顏を擡げる。射るやうな陽の光、見渡す限りの草がこれをうけてさつと茜色に染まる。今まで斑雪のうちから瘦せて生えてゐた枯草の一本々々が茜色に映えて、前を望んでも後を顧みても右も左もたゞ一面の黃金の台のやう。この曉の景色は壯觀である。ホルトン廟に寄つて禮拜、休憩の後再び北へ。次第に難路にかゝる、渾善達克沙漠の西端を掠めにかゝるわけだ。右手卽ち東方に緩かな砂丘がいくつも遠く近く重なつてゐる、トラックの通るところは一尺前後の低い灌木が無數に群生してゐる。よく注意して見ると、沙漠の中に淺い井戸が掘つてあるのが見付かる。旅行者は大抵こゝで晝飯をしたゝめる。この沙漠で吹雪に遭つて、凍死する人もあるといふ。雪をさへぎる何物もないのだから恐しい。トラックが故障してもそれまでゞあらう。

それから三十分走ると、右手に大斷層を見る。直下四、五丈、切下つた底面は東へ延びて霞んでゐる、素晴しい壯觀である。地圖を按ずるとその東方がウランシャ湖らしい、その斷層の上を走る路を德王街道と呼んでゐる。走れども走れども——三十分近く走つてもこの斷層は續いてゐる。

蒙古草原を走つてゐると、ホワンヤン（ノロ卽ち黃羊の一種）が大群をなしてよく旅行者を驚かせる。何處からとなくホワンヤンが百匹許り群をなしてトラックと競走を始める。この野生の動物は蒙古草原の名物だ。その走ることの速いこと！　トラックがスピードを上げて五〇キロ、六〇キロに達してもホワンヤンはます〳〵肢を早めて走る。乾草色の背に白い腹、細い四肢を目もとまらぬ位にギヤロップしながらついて來る、途端に先頭の一匹が首を左に曲げる。驚くうちに可憐なホワンヤンは、悠々と斜にトラック編隊の行先きを切つて左の丘の彼方に消えて行く。草原の妖精ぢやないかしら？　そんな幻想が旅行者の頭に浮ぶ。この大草原を走り續けると、左手にジャレン廟の白堊と包が見える。その頃には大抵陽が暮れかける。

放牧の馬群五十頭許りがトラックに驚いて蹤いて走ることがある。それはたまらなく可笑しい。大草原のユーモアである。陽脚が草原を東へ東へと逃げる。その頃からトラックも東にカーヴを切つて一路東蘇尼特へ！　その頃の夕景も壯觀である。緩かな起伏をつたつて陽の脚が靜かに東の彼方へ逃げる。トラックはそれを追つて快走また快走。

陽が少し地平線に沒しはじめる。見渡せば今まで斑雪のため蒼白く見えてゐた大草原が、夕陽に映えて一面に朋黃色だ。どうしてこんな朋黃色に染まるのか、今しも大草原は春の若草が朋え出たやう。女性的な、餘りにも女性的な感觸だ。雪の大草原がこんな不可思議な夕景を見

751
251

せようとは！

夕づく頃東蘇尼特に辿りつくことが出來る。かうして西蘇尼特から東蘇尼特への行程は、大草原、沙漠の偉大さを滿喫し、その朝陽と夕陽の壯觀をいやでも眺めることが出來る。この行程で旅行者は蒙古の大草原が理解出來よう。

東蘇尼特を出ると間もなくクフレン廟を過ぎ、それから西阿巴嘎（アバカ）王府に到る。

この王府はなか〳〵近代的で昔から簡單な氣象台など持つてゐる、けだし草原の偉觀である。王の包の中は正面に洋式寢臺、左斜奥に佛壇、歡喜天が祭つてある。普通蒙古人は包を持つて移動するので、器具はみな木製で、陶磁器は使はないのだが、流石王府であらう。タバコセット、コーヒーポットなど目を驚かせる。王府の隣がホンホル廟、この東方東阿巴嘎には德王妃の實家がある。

再び草原を東北東へ。よく丘の上を蒙古人が黄色の被衣を纏つて、蒙古馬に鞭打つて疾驅してゐる。鞍上人無く鞍下馬なしとは、これ蒙古人は「馬を履く」のだといつた人もある。

五、貝子府の附近

朝、東蘇尼特を立つと夕方待望の貝子廟（ベースメウ）に着く。こゝには善隣協會、廟、大蒙公司、買賣家（マイマイチヤ）東阿巴哈那爾（アバハナル）王府などがある。

貝子廟は流石に大きい。大きな喇嘛廟が四つ甍を並べて大草原を睥睨してゐる。その横に喇嘛の私宅の包が集落をなしてゐる。一キロ許り離れて漢人の買賣家數十軒が數部落に分れて散在してゐる。その間に大倉系の大蒙公司があり、善隣協會はそれから少し離れた所にポツンと建つてゐる。

大草原の眞只中にこれだけの數種の建物が點在してゐる——これが貝子廟の全景である。都會式な街を想定しては間違つてゐる。だが廟こそは蒙古人の社會生活の中心點であり、廟と廟を結ぶ宗教的なルートが同時に蒙古草原の經濟ルートであることを見逃してはならない。丁度京包線の西端包頭市に西方交易の結集點を見たと同樣に、この貝子廟に蒙古經濟生活の凝集點を見ねばならぬ。こゝで第一に感ぜられるのは、蒙古の富が王公と喇嘛廟と漢人買賣家に三分して集中されてゐる姿である、貝子廟に勤行する喇嘛の數は八百を超えてゐる。

貝子廟の西、東阿巴哈那爾王府を訪ねると群王がゐる。こゝは北と東西に丘を負ひ、珍しい丈餘の太い樹が十數本も育つてゐる。蒙古大草原は草が漸く疎らに生えてゐるだけで樹木はない。こゝの十數本の樹木——それは自然に實が運ばれて生えたのか、誰かゞ植ゑたのか判ら

751
251

ない。しかし兎に角、非常に珍しい眺めである。こゝの王妃は稀に見る明眸で、滾れるやうな愛嬌を含めてゐる。平民の包の出で二十歳に滿たない初々しさ、水で顏を洗つたことのない蒙古人にこの肌の美しさ！　王妃は牛乳で洗つてゐるのださうだ。貝子府の一夜に羊を一頭料理して貰ひ、蒙古人青年から成吉思汗の歌を聽かせて貰ふのも興が深からう。

ゴーホ　トーガン
マンダコーラガート
コーチエン　スーリゲン
バータラコーリヤー

青い旗（ゴーホトーグ）はかの蒙古の不世出の大英雄への思慕の象徴である。

貝子廟を出發して西烏珠穆沁（ウジュムチン）に向はう。何のことはない、旗公署の包が數個、善隣協會、買賣家數軒が一キロ乃至二キロを隔てゝ散在してゐるだけ。王府は丘を二つ三つ越えねばならず、而もこゝの王はお齡がまだ七歳である。こゝ西烏珠穆沁は昭和十一年四月二十四日、國民政府の蒙古彈壓に抗して雲王や德王が第一次蒙古會を開いた歷史的な土地である。支那事變になつてからの厚和の第二次大會より僅か一年餘り前のことである。錫林郭勒盟は西烏珠穆沁第一次蒙古大會によつて蒙古回轉の「蝶番」となつたのだ。

六、ダブス・ノール

西烏珠穆沁からダブス・ノールまでは相當の難行である。或は貝子府から直行してもいゝ。ダブス・ノール！　蒙古人はこの大鹽湖をタブーの如くに畏敬してゐるといふ。女も他鄉の人々もすべてこれに近寄ることを許さないといふ。さういふ話からダブス・ノールは祕湖として傳へられてゐる。然し實際はそれほど嚴重なものではない。このダブス・ノールに來るに先立つては、然るべく間違ひのない諒解をつけることは忘れないがいゝ。湖が見えてから走ること約一時間、漸くダブス・ノール湖畔のダブス廟に着く。

神祕の鹽湖は遙遠く丘陵に圍まれて四圍は白雪皚々、その中に千古の沈默を祕して、周一六キロの湖水が凍らないで黑く沈んでゐる。

湖畔まで歩いて行かう。途半ばにして斑雪の間に土が白く鹽を吹いてゐる。枯れた雜草が鹽で白い、だん〳〵長靴がぬめり込むやうになる、湖の水があふれた濕地帶に入る。水溜りに雪が二、三寸積つてゐる。——やつと湖畔まで辿りつく。長靴がともすればぬめり込む。枯れた雜草を足場にして先づ指先を水に入れて甜めて見る。鹹い！　舌をつく鹽鹹さだ！　ぢつと手

751
251

を伸して水の底を探つて見ると、深さ僅か三—四寸で一面に鹽の結晶が盤狀に擴がつてゐる。所々に黑い龜裂を模樣のやうに織りなして、遠く湖心に向つてぼけてゐる。水底の結晶をぐつと押し碎いて見ると、その厚さは一寸近くで直ぐ下は泥土である。湖心に近づいても水の深さは一尺を越えないが、結晶の厚いところは五寸から一尺に及ぶといふ。

毎年三月末から九月頃までに採鹽夫が牛車をひいて湖中に入り、湖底の鹽を斧で碎いて運び出す。それを乾かしただけで食用鹽となり、蒙古全土から滿洲國、北支に向けて牛車が蜿蜒と搬出するのは素晴しい奇觀である。湖は丁度西烏珠穆沁旗と東浩濟特旗と兩方に跨がつてゐるが、採鹽夫は嚴重に兩旗民の蒙古人に限る掟がある。

内蒙察哈爾事情の誌す處によれば一ケ年の採鹽量は二、五〇〇—三、〇〇〇萬斤といふ。採鹽するあとから鹽が吹いて出るので、その地下埋鹽は推定がつかぬ。採鹽の課稅は錫林郭勒盟のまたとない好財源となつて居り、内蒙奥地の神祕の大資源たることはいふまでもない。

ダブス・ノールから東南に丘を越えて鹽湖が見えなくなると、右手西北方の遙か彼方に連山の鋭い稜角線を見ることが出來る。内蒙古の女性的な丘を見なれた眼はハッとこれに吸着けられる。この稜角線が赤色外蒙との國境線である。

善隣協會の蒙古大觀によれば、昨十三年「外蒙兵が達里崗崖（タリカンガ）から侵入し錫林郭勒盟阿巴嘎の

善隣協會を襲擊した」旨の記錄がある。滿洲國に接壤し、長く東北から西へ伸びる内蒙草原の特殊防共地域たる意義が、こゝでポッカリと腦裡に浮彫りされて來る。こゝは内蒙と外蒙の境近く、内蒙錫盟の最北端である。内蒙奥地の視察はこゝを打ちどめに再び引返さねばならない。

七、川のある風景・百靈廟

包頭から自動車で北へ、陰山山脈の西にきはまる處を越え、固陽を過ぎて、一日行程で百靈廟に着く。百靈廟の喇嘛廟も、貝子府や多倫に次ぐ大きな廟で喇嘛の聖地だ。

小高い山の蔭に抱かれ、廟のほとりを大きな川が靜かに流れてゐる。沙漠と草原の蒙古大高原に、この川のある風景はたまらなく魅惑的である。廟の背後に僧房が取卷いてゐる。此處は前に述べた德王の自治政府のあつたところ、政治の中心地だつた。支那事變勃發當初支那軍に荒されその修復未だ成らず痛ましい氣がする。喇嘛僧も一時は千人位ゐたが今は百人前後に減つてゐる。だが川の水はすき透つて靜かに、歷史の齒車の音も知らぬ顏に流れてゐる。魚が泳いでゐる！　手拭を入れてすくつて見ろが丸で逃げることを知らないやう。一寸位の可愛い魚が手拭の中に躍る。蒙古人は生魚を食はない。魚も此處は命の危險を知らないのかも知れな

い。蓋し蒙古草原の異風景である。

八、廢都の多倫（ドロン）

張家口乃至張北から東北へ自動車全一日の行程、滿洲國との境近くに多倫がある。此處は往年賑はつた町で、此處に日本人經營の旅館が一軒あつて、支那事變になるまでは日本人も澤山泊つたものだが、今はさびれてゐる。多倫そのものが蒙古人敗退の跡といつてよく、その意味で廢都（都でもないが）といつた感じである。漢人部落の田舍町で、昔佛像などの製作が盛んだつた。附近には蒙古人の包（パオ）一つ見えるでなく、全くの漢人町である。日本里で約半里離れた郊外に宏莊な喇嘛廟が二つ、貝子府の廟に匹敵する大きな規模だが、附近に既に蒙古人が住んでゐないから蒙古人の信者がゐるわけもなし、廟の祭の日に奥地から蒙古人信者が集まるほかは、平生は大きな廟の一角に留守番役が住んでゐるだけ。如何にもうらぶれた廢都の風景である。

朝日東亞リポート（5）
蒙　疆　定價　三十錢
昭和十四年六月三十日印刷
昭和十四年七月　五日發行
不許複製
編輯人　東京朝日新聞社東亞問題調査會　代表　大西齋
發行人　東京市麴町區有樂町二丁目三番地　東京朝日新聞社　比佐友香
印刷人　東京市小石川區久堅町一〇八番地共同印刷株式會社　大橋光吉
發賣所　東京丸の内　大阪中の島　朝日新聞社

751
251

751
251

751

■朝日東亞リポート既刊目錄■

朝日新聞社內東亞問題調査會責任編輯

第一輯　香港と海南島
第二輯　滿洲移民
第三輯　支那の租界
第四輯　北洋漁業
第六輯　以下續刊……

各輯定價
三十錢
（送料三錢）

昭和十三年　朝日東亞年報　菊判　三二五頁　定價一圓五十錢（送料十四錢）

蒙疆地

外蒙古共

蒙古聯盟

大草原（牧放）

蒙古林

蒙古鍚盟

滿洲國

察哈爾盟

自治政府

烏蘭察布盟

綏遠省

晉北政府

晉南政府

旧赤色ルート（張庫街道）

倫庫至

白廟子

連二

塩

廟ントルホ

旗特尼蘇東

旗特尼蘇西

旗嗔巴阿西

旗嗔巴阿東

旗爾那哈巴阿西

旗爾那哈巴阿東

府子貝

旗特濟浩西

旗特濟浩東

ルーノスブダ

廟明魯

旗沁穆珠烏東

旗沁穆珠烏西

魯開至

西林

旗藍正

旗安明

旗白廟

旗白正

旗翼左寺僕太

倫多

場圍至

畜牧着定

旗都商

旗黃廟

化德

保康

源寶

源沽

旗翼右寺僕大

北張

禮崇

鐵（烟龍）

張家口

化宣

都商

旗紅商

旗紅正

旗黃正

義商

和興

鎮豊

同大

炭石

京北

德承

源凌

州義

州錦

峰赤

旗翼右哈爾喀（旗勒貝罕爾達）

廟ンレムラシ

旗落部子四

廟靈百

旗安明茂

旗後特拉烏（旗公東）

旗中特拉烏（旗公中）

套後

原五

脈（溝彦白）

綿石

北安

陽固

山

綿石（溝兒廟）

川武

召達五

和厚

林陶

旗藍廟

泉地平

巴彦塔拉

城涼

林和

河水清

托克托

齊拉薩

頭包

旗前特拉烏（旗公西）

綿石（山拉烏）

塩

原平

旗後翼左斯多爾鄂（旗特拉達）

旗後翼右斯多爾鄂

ドルオス

勝東

套前

洛霍金伊

旗中翼左斯多爾鄂（旗王郡）

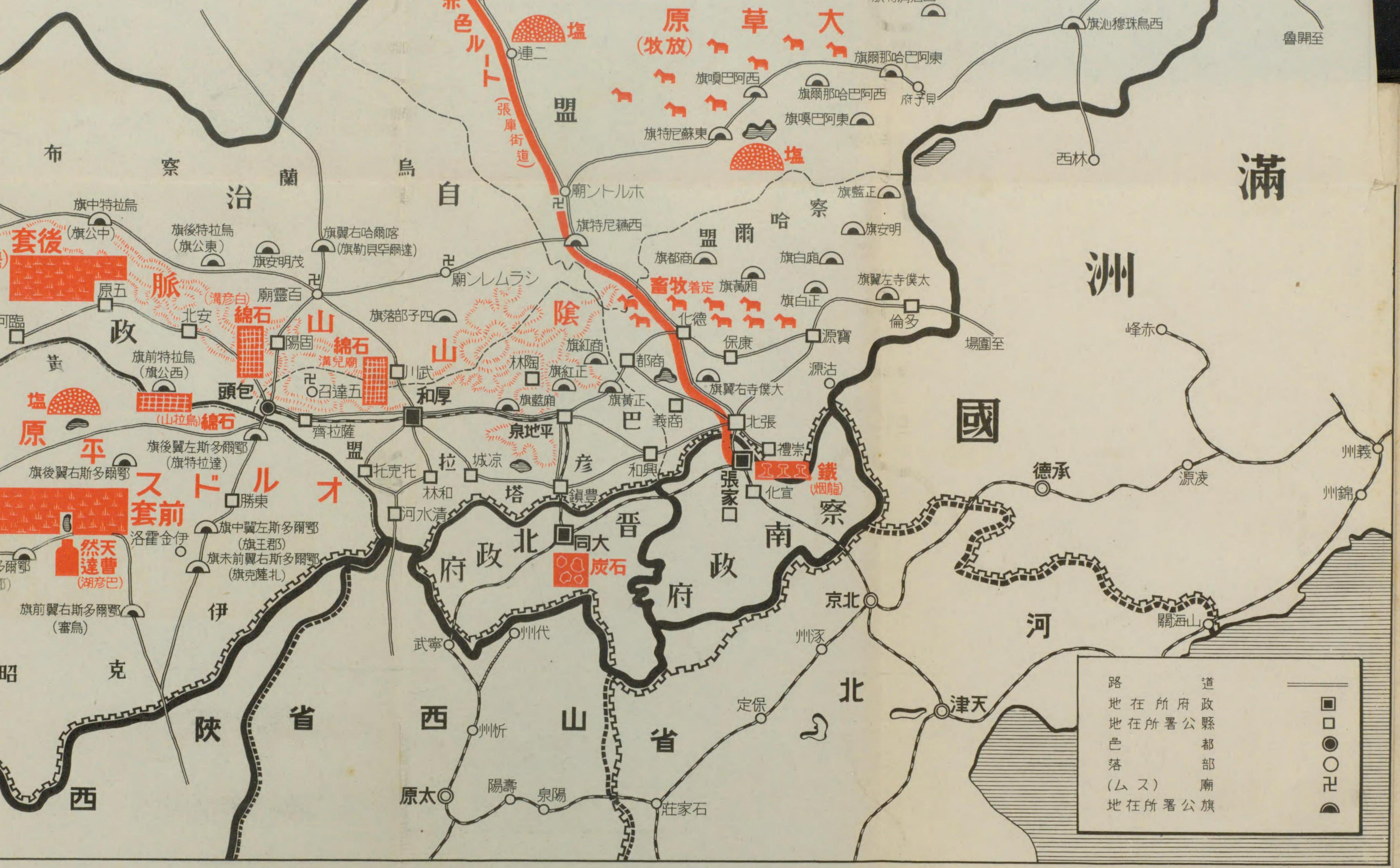
旗未前翼右斯多爾鄂（旗克薩札）

天然達曹（湖彦巴）

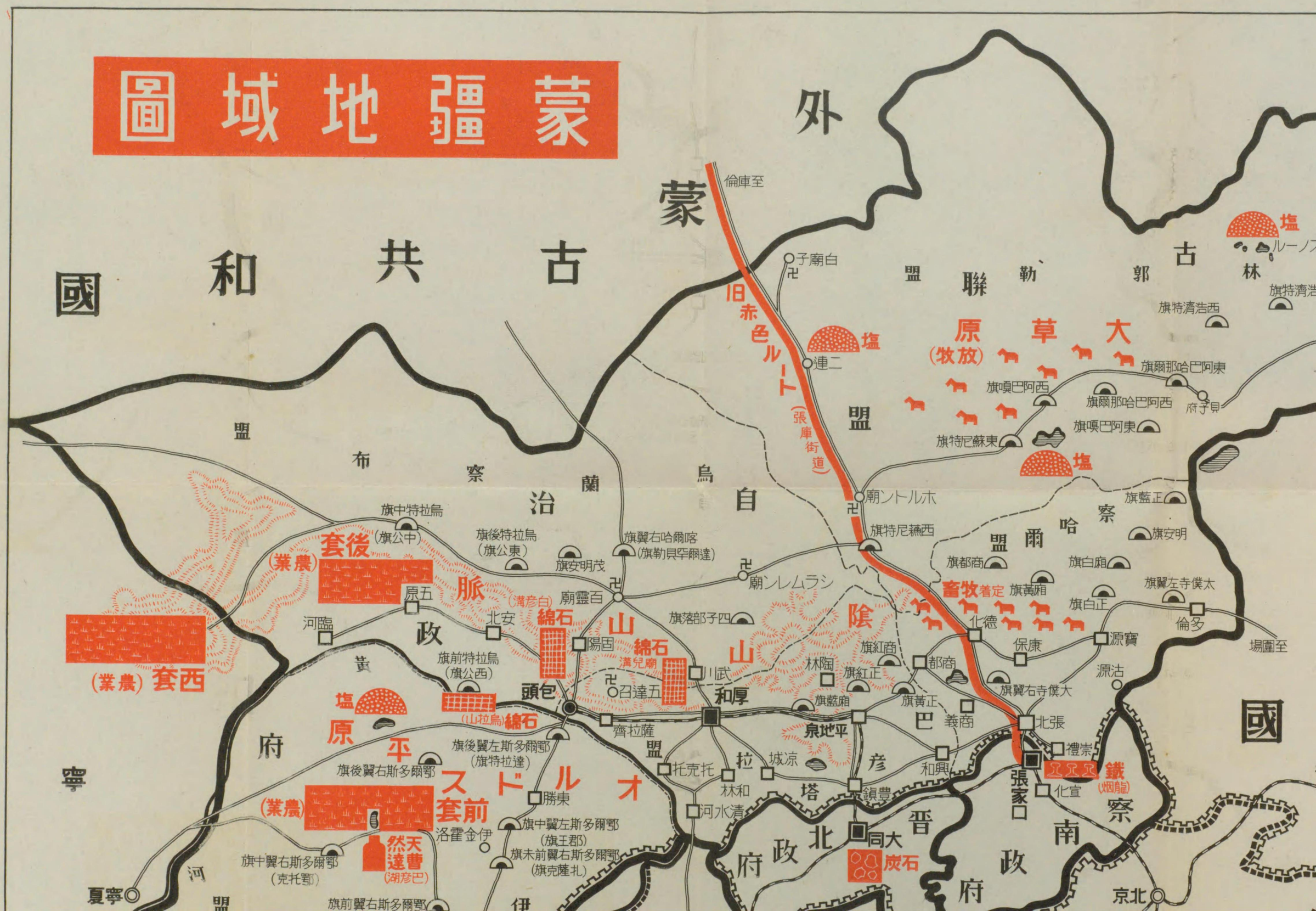
爾鄂

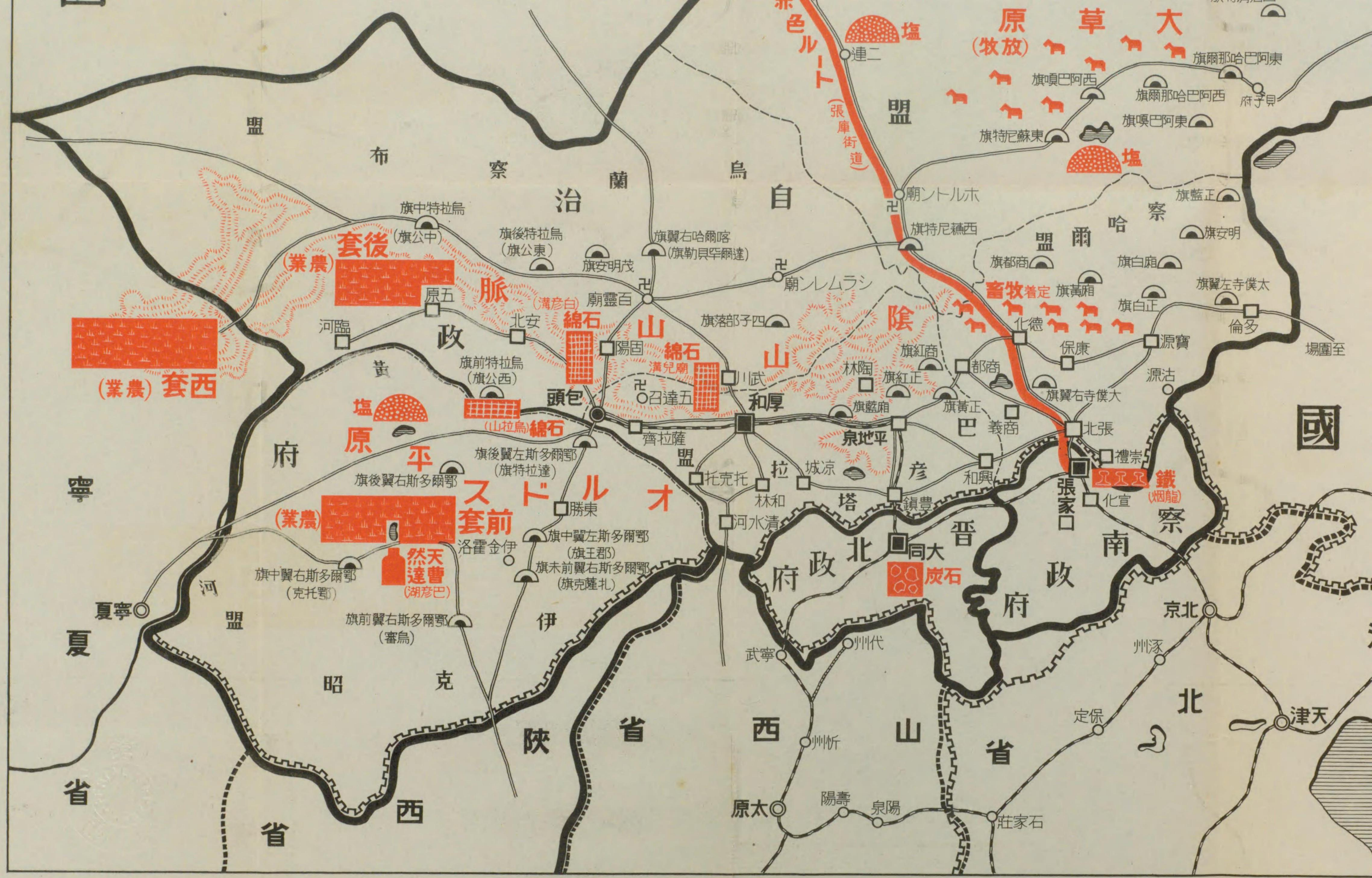
旗前翼右斯多爾鄂

伊


赤色ルート
(張庫街道)
塩
連二
大草原
(牧放)
旗嗔巴阿西
旗爾那哈巴阿東
旗爾那哈巴阿西
府子貝
旗嗔巴阿東
旗特尼蘇東
塩
廟ントルホ
旗特尼蘇西
旗藍正
旗安明
旗都商
旗白廂
畜牧着定
旗黃廂
旗白正
旗翼左寺僕太
倫多
化德
保康
源寶
場圍至
源沽
旗紅商
都商
旗紅正
旗翼右寺僕大
北張
禮崇
鐵
(烟龍)
化宣
張家口
旗黃正
義商
和興
鎮豐
同大
炭石
旗翼右哈爾喀
(旗勒貝罕爾達)
廟ンレムラシ
旗落部子四
陰山
林陶
旗藍廂
泉地平
巴彥塔拉盟
城涼
林和
河水清
托克托
齊拉薩
和厚
召達五
陽固
綿石
(滿兒廟)
廟靈百
(滿彥白)
綿石
脈
旗中特拉烏
(旗公中)
旗後特拉烏
(旗公東)
旗安明茂
原五
北安
旗前特拉烏
(旗公西)
頭包
(山拉烏)綿石
塩
原平
旗後翼左斯多爾鄂
(旗特拉達)
旗後翼右斯多爾鄂
套後
ドルオス
勝東
旗中翼左斯多爾鄂
(旗王郡)
旗未前翼右斯多爾鄂
(旗克薩北)
洛霍金伊
套前
天然
達曹
(湖彥巴)
旗前翼右斯多爾鄂
(審烏)
伊克昭盟
黃河政治
布察蘭
烏自治
察哈爾盟
滿洲國
河北省
晉北政府
晉南政府
陝西省
山西省
武寧
州代
州忻
原太
陽壽
泉陽
莊家石
定保
京北
州涿
天津
德承
源凌
州義
州錦
峰赤
場圍至
關海山
西林
旗沁穆珠烏西
魯開至
府子貝
路道
地在所府政
地在所署公縣
邑都
落部
(ムス)廟
地在所署公旗

蒙疆地域圖


外蒙古共和國
至倫庫
旧赤色ルート（張庫街道）
白廟子
塩
連二
盟聯勒郭古
大草原（牧放）
塩
ルーノス林
旗特濟浩西
旗特濟浩
旗爾那哈巴阿東
旗嗔巴阿西
旗爾那哈巴阿西
府子貝
旗嗔巴阿東
旗特尼蘇東
塩
廟ントルホ
旗特尼蘇西
旗藍正
旗安明
盟爾哈察
旗都商
旗白廟
畜牧着定
旗黃廟
旗白正
旗翼左寺僕太
倫多
場圍至
化德
保康
源寶
源沽
旗翼右寺僕大
北張
禮崇
鐵（烟龍）
張家口
化宣
盟烏蘭察布
自治政府
旗中特拉烏（旗公中）
旗後特拉烏（旗公東）
旗安明茂
旗翼右哈爾喀（旗勒貝罕爾達）
廟ンレムラシ
旗落部子四
廟靈百
陽固
召達五
頭包
旗前特拉烏（旗公西）
（山拉烏）綿石
齊拉薩
旗後翼左斯多爾鄂（旗特拉達）
旗後翼右斯多爾鄂
勝東
旗中翼左斯多爾鄂（旗王郡）
旗未前翼右斯多爾鄂（旗克薩北）
洛霍金伊
旗中翼右斯多爾鄂（克托鄂）
然天達曹（湖彥巴）
旗前翼右斯多爾鄂
夏寧
河臨
原五
北安
（業農）套後
（業農）套西
（業農）套前
脈（溝彥白）綿石
山綿石（溝兒廟）
陰山
塩
原平
オルドス
黃河
寧夏府
盟
盟
盟


赤色ルート
(張庫街道)
塩
連二
大草原
(牧放)
旗嗔巴阿西
旗爾那哈巴阿東
旗爾那哈巴阿西
府子貝
旗嗔巴阿東
旗特尼蘇東
塩
廟ントル木
旗特尼蘇西
旗藍正
旗安明
旗都商
旗白廟
旗翼左寺僕太
畜牧着定
旗黃廟
旗白正
化德
倫多
保康
源寶
場圍至
源沽
旗翼右寺僕大
北張
禮崇
張家口
化宣
鐵
(烟龍)
察
南
政
府
盟
哈
爾
盟
察
烏
蘭
察
布
盟
自
治
旗中特拉烏
(旗公中)
旗後特拉烏
(旗公東)
旗安明茂
旗翼右哈爾喀
(旗勒貝罕爾達)
廟ンレムラシ
旗落部子四
陰
山
旗紅商
旗紅正
林陶
旗藍廟
泉地平
都商
義商
旗黃正
巴
彥
和興
鎮豐
塔
晉
北
同大
炭石
政
府
武寧
州代
州忻
原太
陽壽
泉陽
莊家石
州涿
京北
定保
北
津天
國
寧
夏
省
夏寧
河
盟
昭
克
伊
陝
西
省
西
省
旗後翼左斯多爾鄂
(旗特拉達)
旗後翼右斯多爾鄂
旗中翼左斯多爾鄂
(旗王郡)
旗未前翼右斯多爾鄂
(旗克薩扎)
旗中翼右斯多爾鄂
(克托鄂)
旗前翼右斯多爾鄂
(審烏)
洛霍金伊
天然
曹達
(湖彥巴)
(業農)
套前
(業農)
套後
(業農)
套西
塩
原平
(山拉烏)綿石
頭包
旗前特拉烏
(旗公西)
河臨
原五
北安
(溝彥白)
綿石
脈
廟靈百
旗安明茂
旗後特拉烏
(旗公東)
旗翼右哈爾喀
(旗勒貝罕爾達)
廟ンレムラシ
旗落部子四
陽固
綿石
溝兒廟
召達五
川武
和厚
齊拉薩
盟
托克托
拉
城涼
林和
河水清
黃
政
府
ドルオス
盟

751
251

751
251

751
251

¥0.30

朝日新聞社發行

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black